

# 那覇市NPO活動支援センター 平成21年度 事業報告書



指定管理者  
特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

平成22年4月



## はじめに

平成 12 年 1 月 15 日に誕生した那覇市 N P O 活動支援センターも今年の平成 22 年 1 月をもって 10 年の歳月を数えることになりました。私たちも昨年度から指定管理者として運営する側に携わるまでは、一利用者として会議室や印刷機、また講座などを受け成長の機会を与えていただきました。10 年目のこの時期に指定管理者として関わることができるのはありがたくもあり身の引き締まる思いです。

今年は政治の世界でも大きな変革のあった年でもあり、自民党から民主党へ政権交代が行われました。第 173 回国会において鳩山首相が行った所信表明演説の中で「新しい公共」とその担い手として N P O が位置づけられました。「新しい公共」円卓会議が開かれ考え方やその展望を市民、企業、行政などに広く浸透させるとともに、これからの日本社会の目指すべき方向性やそれを実現させる制度・政策の在り方などについて議論が行われています。また、ソーシャルビジネスといったビジネスの手法をもって社会課題を解決する取り組みも注目されるようになりました。今まで行政主導で行われていた公共の領域に市民が進出し、社会課題の解決の担い手としての期待が広がっています。

沖縄県内各地においても、北部地域のドクターヘリの運航、ホームレスの支援、遺骨収集、高齢者の就労支援、母子家庭への就労支援、フードバンクなどといった社会課題の解決に向けて多くの N P O が迫力ある活動を展開しています。

しかし、N P O の活動団体数も増加傾向にあるものの年間事業規模が 500 万円以下の団体が 7 割と活動状況は依然厳しく、N P O による不祥事も新聞をにぎわしており N P O に対する社会的な信頼性の向上が課題としてあがっています。

そのような中で今後 10 年における N P O 活動支援センターの役割を探るべく、那覇市 N P O 活動支援センターの 10 周年記念事業として「社会で公益的な N P O ・市民活動を支えるための資金支援とは」と題しシンポジウムを開催しました。N P O ・市民活動を支えるための資金支援における課題を明らかにし、次の 10 年の資金支援策と沖縄における市民立の財団の必要性と役割を考える機会となりました。今後の N P O 活動支援センターの支援メニューを考える一助となればと思います。

那覇市 N P O 活動支援センター  
(管理運営 / N P O 法人まちなか研究所わくわく)  
小阪 亘

# 目次

はじめに

目次

第1章	ハイライト	3
1-1	那覇市のNPO・市民活動の10年をふりかえって	
1-2	事業トピックス	
	(1) 短期インターンプログラム	
	(2) 那覇市NPO活動支援基金ユースコース新設	
	(3) 「おきなわ市民活動NPO便利帳2010」発行	
	(4) NPO法人会計基準策定プロジェクト全国キャラバン in 沖縄	
1-3	今年度をふりかえって(主要な成果と課題)	
1-4	那覇市のNPO環境をふりかえって	
1-5	利用実態と利用者の声	
第2章	特集 NPOインフォメーション「発見!! 地域の子カラ」	13
第3章	事業成果と課題	17
3-1	「参加と対話のプラットフォーム」事業	
3-2	「課題解決のためのパートナーシップ」事業	
3-3	「NPO情報市場」事業	
3-4	「NPOゆいまーるファンド」事業	
3-5	「企業活力」事業	
第4章	収支概要	27
第5章	運営について	29
5-1	事業推進体制	
5-2	スタッフミーティング	
第6章	資料編	31
6-1	事業評価シート	
6-2	資料&各事業関係チラシ	

# 第1章 ハイライト

1-1. 那覇市NPO活動支援センターの10年をふりかえる

当センターが設置され10年を迎える。平成10年に特定非営利活動促進法が施行されると同時期に、那覇市では第三次総合計画に「市民との協働」が掲げられ、NPO・市民活動との協働への取り組みがスタートした。2000年にNPO活動支援センターが開所し、現在までNPO・市民活動団体への活動支援を継続して行っている。

主な支援メニューとしては、「ものの支援」「技術の支援」「情報の支援」「資金の支援」を基本に、最近ではNPOと行政との協働環境の構築に向けた取り組みが行われている。

1) NPO活動の支援はNPOの手で(官営から民営へ)

NPO・市民活動団体の活動が活発化してくると、NPO・市民活動団体への支援は、NPO・市民活動団体の手で行った方がより支援効果が高いとの判断から指定管理者制度を導入し官設官営から平成17年に官設民営へと移り変わった。

2) NPOが当たり前活動する社会へ

この10年は、NPO・市民活動団体がほとんど存在しないところからの出発で主に活動支援や育成が大きなテーマであった。しかし、那覇市のNPO法人数は150法人(平成20年3月末日)となり、活動している団体は増加。また行政とNPOと協働事業数も247件(平成20年度「NPOとの協働実績調査」)も着実に増やしている。今後は、その様な社会背景のもとで新しい支援メニューの構築が必要となってきた。特に昨今では、NPOの社会への信頼性を創造するための情報発信や、継続的な組織運営のための資金調達やマネジメント、市民社会構築に向けた環境整備など、課題は多く次の10年の支援メニューを描く時期にきている。

3) NPO活動支援センター年表

年 (西暦)	月	那覇市NPO活動支援センター に關わる主な出来事	内容	NPO法人数	
				市内	県内
1995	平成7年		大震災の時に多くのボランティアが被災地に向かい復興への取り組みを行い、社会的にボランティア・市民活動が大きく取り上げられた。これを機に市民活動への法人格の必要性が高まる気運となっ		
1996	平成8年				
1997	平成9年				
1998	平成10年	3月25日 特定非営利活動促進法公布			
	4月	第3次那覇市総合計画	はじめて「協働」という言葉が使われる。市民・事業者・行政のパートナーシップによる「協働型まちづくり」を提唱された。		
		協働型のまちづくりを推進していくためのシステムづくり検討委員会	「協働型まちづくりの促進」するための方策を提言するため「協働型まちづくり推進のための答申」において、那覇市NPO活動支援センター及び那覇市NPO活動支援基金の設置を提案した。		
	12月1日	特定非営利活動促進法施行	NPO法人県内1号はNPO法人イチャリパチョーデーゆいまーる広場ヒューマンセーフティネット		
1999	平成11年	公益信託 那覇市NPO活動支援基金	那覇市が6,000万円を信託し設立。「市民の力をつなげ、NPOが地域づくりに参画する社会」をテーマに、主に那覇市において住みよいまちづくりを推進する市民活動団体に対して助成を行っている。		
	12月4日	公益信託那覇市NPO活動支援基金 第1回公開審査会	若狭公民館3階ホールにて開催。10万円コース(5募集/14申請)10~100万円コース(7募集/27申請)公開審査会方式で選定。助成総額200万円		
2000	平成12年	1月15日 NPO活動支援センター設置	那覇市役所本庁舎前プレハブにて、官設官営の支援センターとして設置された。初代センター長は横山芳春さん。		
	3月			2	8
	4月22日	第2回公開審査会	若狭公民館3階ホールにて開催。助成総額250万円。10万円コース、20万円コース、50万円コースを募集		
2001	平成13年	3月		3	18

## 第1章 ハイライト

2002	平成14年	3月23日	ボランティア国際年記念事業「もーれもーれチャンプル祭り-踊るあなたもボランティア」を開催	学生NPOの地域活性化協力隊-We love okinawa-ボランティア国際記念事業(100万円)を受託し、実施した。	16	55
		4月	NPO活動支援センターの講座事業を一部業務委託	那覇市NPO活動支援センターの講座事業を沖縄リサイクル運動市民の会(代表古我知浩)に業務委託。専従スタッフ後藤哲治		
		7月	NPO講座100時間～NPO人材養成プログラム～を実施	全7回にわたりNPOに詳しい講師陣を県外から招聘。(講師:川北秀人さん、福島達也さん、加藤哲夫さん、世古一穂さん)		
		9月	市民活動データブックチャーターゆい2002年版	沖縄県内のNPO市民活動の情報を集めたデータブックを県内初出版		
2003	平成15年	2月10日	NPOフォーラム「人・地域・ネットワーク～真の市民参加に向けて～」	基調講演:世古一穂さん(NPO研修・情報センター代表理事) 対談:翁長(那覇市長) コーディネーター:古我知浩(沖縄リサイクル運動市民の会)		
		3月			32	82
		4月	コミュニティ活性化推進室の設置、その中にNPO活動支援センターが位置づけられる	自治会の活性化とNPOの活動基盤整備、市民セクター・企業セクターとのパートナーシップ形成を通して、コミュニティの活性化を推進し、市民社会の構築を目指す		
		1月	おきなわNPO月間を開催	県内NPO活動の中間支援を行っている、沖縄県ボランティア・市民活動支援センター(県社協)・沖縄県NPOプラザ(調査隊おきなわ)・那覇市NPO活動支援センター(那覇市・沖縄リサイクル)が集まりNPO月間を開催		
2004	平成16年	3月			46	117
		11月9日	NPO活動支援センター那覇ぶんかテンプス館に移動	国際通りの中ほどにある旧国際ショッピングセンター跡地に那覇ぶんかテンプス館が完成。その3階に移転。床面積は179.5㎡になりインキュベーションなどを新たに設置された		
2005	平成17年	1月	おきなわNPO月間(1/17～2/17)開催	県内の支援機関が集まるおきなわ市民活動支援会議の構成団体も5団体に拡大。月間パンフレットやイベントを行い大きなイベントとなる。		
		3月			58	153
		4月	指定管理者制度の導入	第1期の指定管理者に沖縄リサイクル運動市民の会、官設民営のセンターに、1期3年		
		11月	おきなわ市民活動NPO便利帳2005年版を発刊	掲載団体数166団体		
2006	平成18年	3月			73	200
		4月				
2007	平成19年	3月			104	274
		4月	市民協働推進課の設置	市民との協働を推進し、地域自治の拠点作りのため「市民活動課」を廃止して、「市民協働推進課」を設置		
		7月	公益信託那覇市NPO活動支援基金第9回公開審査会より、「市民提案協働型まちづくりコース」が新設	前年度に民間都市開発推進機構の「住民参加型まちづくりファンド」の助成が決定。ハードのまちづくり活動に助成がたせるようになる(総額1700万円)		
2008	平成20年	1月	おきなわ市民活動NPO便利帳2008年版を発刊	沖縄県内のNPO534団体に調査(法人294、任意240) 掲載団体数216団体		
		3月			119	315
		4月	第4次那覇市総合計画	第3次総計では、協働が目的化、第4次総計では、協働は手段と明確 協働のルールづくり事業(H20～21)⇒より広く、誰もが協働によるまちづくりを進める際のルール(心構え)		
		4月	第2期指定管理者	第2期指定管理者に特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく(理事長小阪直)になる。		
			市民協働推進員の配置	各課に協働推進員を配置		
		7月	公益信託那覇市NPO活動支援基金第10回公開審査会の記念会で100万円コース			
2009	平成21年	3月	沖縄・那覇の市民公益活動を支える資金循環実態調査報告書作成	多様な主体との協働による政策研究事業にて、那覇市とまちなか研究所わくわくで県内における市民活動向けの助成金の実態調査と那覇市NPO活動支援基金の10年のまとめと今後10年に向けての提言を行った。	134	370
		7月	公益信託那覇市NPO活動支援基金第11回公開審査会においてユースコースを設置	次世代のNPOの担い手の育成に、高校生・大学生・専門学校生コースを新設		
		12月	NPO法人アンビシャスが認定NPO法人に	県内初の認定NPO法人誕生		
2010	平成22年	2月	那覇市NPO活動支援センター10周年事業 公益的なNPO・市民活動を支える仕組みとは	10年間のNPO活動支援センターの活動よりNPO・市民活動を支えるための資金支援における課題について明らかにし、次の10年の資金支援策について考え、沖縄に市民立の財団が必要と役割を考えることを目的とする。みらいファンド沖縄設立準備会と共催		
		3月	おきなわ市民活動NPO便利帳2010年版を発刊	沖縄県内のNPO760団体に調査(法人404、任意356(09年9月)) 掲載団体数302団体	151	425

※年間の法人数の数字は(4月～3月)とする

## 1-2. 事業トピックス

### 1) 短期インターンプログラム (2009年8月31日(月)~9月18日(金))

沖縄国際大学のインターンシップ実習先として当センターで5人の学生を3週間受け入れた。

インターンシップのプログラム内容として、最初に喜久里美也子氏(NPO法人脳文庫)に接遇の研修を実施し、その後3週間の目標設定を行った。主な事業としては、2グループに分かれ2010年度版便利帳作成(NPO団体のピックアップ、集計)、特集記事作成(団体調べ、打ち合わせ、取材)を行った。OCN番組制作では、NPO法人プロミスキーパーズとNPOガマフヤーの真嘉比地区の遺骨収集事業の取材を行った。最後に学生自ら卒業報告会を企画し、3週間の活動経験の発表を行った。



2009年8月31日(月)~9月18日(金)  
那覇市NPO活動支援センターにて  
インターン報告会

参加した学生からは、「NPOという目線で社会を見たときに、様々な社会問題を知ることができた。」「やると決めたことは最後までやりぬく心構えやコミュニケーション、チームで働くことの大事さ」「今回の実習で視野が広がったと思います。自分から行動を起こす力も身についたと感じます。」という声が上がった。

### 2) 那覇市NPO活動支援基金ユースコース新設

今回で11回目の公開審査会を迎えた那覇市NPO活動支援基金は、「NPOの次世代の担い手を新たに発掘し、育成する」というテーマに取り組むため、ユースコースを設置した。その結果として「高校生グループ」(10万円助成コース:5団体)に5団体の申請があり、「大学生・専門学校グループ」(10万円助成コース:5団体)には、7団体の申請があった。7月4日に実施した公開審査会では、那覇市内の高校、公民館、那覇市子ども会連合会(ジュニアリーダー)などに参加が広がり、一般(20万円コース、50万円コース)の団体も高校生の刺激を受け、プレゼンテーションも盛り上がった。



2009年7月4日(土) 公開審査会  
那覇市文化てんぷす館  
4階ホールにて

助成を受けた学生グループが事業を実施する過程で活動状況がみえない部分があり、実施していく中での悩みや課題に対するサポートができなかった。

ユースコースの団体がどのような取り組みをしたかについては、まだ報告は上がっていないが、気づきと学びの機会になればと考えている。今後は、事業実施する過程においてのサポートが必要である。

3)「おきなわ市民活動NPO便利帳 2010」発行

前回の便利帳発行から2年が経過し、現在のNPOの活動状況もかわってきている。解散・休止の団体や新しくできた団体もあるが、それらの団体情報を得られるツールがない。最新のNPO活動情報を提供するため「おきなわ市民活動NPO便利帳 2010」の制作に取り組んだ。2008年度版便利帳に掲載している216団体、県内のNPO法人、センターで把握している任意団体に活動状況アンケートを発送し、現状を調査するとともに便利帳2010年への掲載依頼を行った。全760団体にアンケートを送付し、掲載団体数は302団体となり、解散・休止団体は46団体だった。また今回は、沖縄国際大学短期インターン生が便利帳を使って団体取材に行くまでのプロセスを紹介した。取材記事もNPOリストとともに掲載した。



「沖縄市民活動NPO便利帳 2010」  
2010年3月発行、A5版：246ページ

今後は、いち早く最新の市民活動情報や団体情報を効率的に得られるよう外部の中間支援組織と連携しウェブ上での発信を行っていく。

4)NPO法人会計基準策定プロジェクト全国キャラバン in 沖縄

(主催：NPO法人会計基準協議会 那覇市NPO活動支援センター)

NPO法施行から10年が経過するが、会計処理が統一されていないことが、決算書類の信用性や情報公開において課題となっていた。

平成21年3月、全国のNPO支援団体による「NPO法人会計基準協議会」が設立され、専門家の協力も得て、会計基準案策定の協議が進められてきた。全国のNPOや関係者の意見を反映させていくために、全国キャラバンが行われ、沖縄では、おきなわ市民活動支援会議の全面協力のもと準備が進められ、76名(内NPO46名)もの参加を得た。



2009年12月10日(木) 18:30~21:00  
沖縄県総合福祉センター  
東棟4階403研修室にて

開催されたNPO法人会計基準策定プロジェクトからは、副委員長の脇坂誠也氏が来沖され、策定にいたった背景と今回の会計基準の論点「小規模法人に対する配慮」や「現物寄付の取り扱い」「ボランティアの取り扱い」などについて現在の委員会見解を交えつつ説明があった。今後この会計基準を広めていくには最終的には会計に詳しい人ではなく、多くは会計よりも活動!といった層で、その伝え方について改めて考えさせられた。

1 3. 今年度的那覇市NPO活動支援センターをふりかえって

1) ベランダでゴーヤーカーテン実験

「環境から健康を考える会」エコットの協力を得ながら、センターのベランダにゴーヤーの苗を植え、緑のカーテンづくりに取り組んだ。収穫されたゴーヤーはスタッフミーティングで食された。今年度の成果をステップに次年度是那覇市の補助制度を活用しながら、拡大して行っていく。



2) 青年会議所全国大会に合わせて JC とコラボ

那覇青年会議所主催のNPOと企業のパートナーシップシンポジウムに協力し、MESH サポートやフードバンクセカンドハーベスト沖縄、ハンディサポートふれんどなどのNPOをコーディネートした。県内に広がりつつあるNPOと企業の協働の取り組みを広める機会となった。



3) インターンの手によるインターン卒業式

半年または1年というスパンでインターンの受け入れを行っている。そのインターン自身の手による次期インターンに向けた卒業報告会を開催した。NPOについての情報やインターン期間中に学んだことなどを工夫を凝らして伝える機会となった。今後はインターン受け入れプログラムに組み込んでいく。



4) インターン・スタッフのための接客研修開催

9月に沖縄国際大学3年次の短期学生インターンの受け入れを行った。センタースタッフとしてNPOの訪問や関係機関との調整などの業務、また公共施設として多様な利用者の対応を行っていく上で求められるコミュニケーションやマナーについての接客研修を行った。NPO法人脳文庫代表の喜久里さんを講師に迎えて、常勤スタッフにとっても有益な研修会となった。



5) 「まちからコラボ」にNPOと企業の協働特集登場

昨年より引き続き発行している那覇の協働フリーペーパー「まちからコラボ」にNPOと企業の協働コーナーを新設した。第1号では、廃棄されている食料を必要としているところにつないでいる仲村食品とフードバンクセカンドハーベスト沖縄、プロミスキーパーズを紹介した。第2号ではゆめきらきらマグネットを取り巻く、琉球ガラス村と福祉作業所などを紹介している。次年度も引き続き、県内でも広がりつつあるNPOと企業のコラボを紹介していく。



6) 対応困難な相談についてのケース会議を実験開催

昨年度（平成20年度）より個人からの生活困窮に関わる相談が増加していたが、今年度も引き続きセンターでは対応しきれない相談が続いたため、実験的に一つひとつの相談に対する対応を検討するケース会議を開催した。会議には大学で福祉を専門とする先生にも入ってもらい、対応について議論した。相談を受けたスタッフが抱え込まず、吐き出す機会としても必要であるということから次年度は定期的に行っていくこととなった。



1 4. 那覇市のNPO活動環境をふりかえって

1) 沖縄県内でも公益社団法人が初認定

平成20年12月の公益法人制度改革関連3法施行から丸1年が経過し、沖縄県内でも公益認定等審議会が設置され、公益認定に関する議論・審議が行われている。そうした中、平成22年3月に初の公益社団法人が認定された。公益的な市民活動の器としての動きに注目である。

【新制度概要】

平成20年12月1日に公益法人制度改革関連3法( )が施行され、明治29年の民法制定以来はじめて、公益法人制度の抜本的な改革となった。

これまでの知事等による公益法人設立許可制度を改め、登記のみで法人が設立できる一般社団・財団法人の制度を創設。一般社団・財団法人のうち、公益目的事業を主たる目的とする法人であって法が定める基準を満たすものについては、民間有識者から構成される合議制機関(沖縄県公益認定等審議会)の審査に基づき、認定する公益社団・財団法人の制度を創設。新制度が実施されると、現行の公益法人制度は廃止。

2) 沖縄県で初めて認定NPO法人が認定「認定NPO法人アンビシャス」

難病患者を支援するNPO法人アンビシャスが平成21年12月に沖縄県内初となる認定NPO法人に認定された。認定されたことで、寄付者に対し所得税計算時の寄付金控除が適用されるほか、相続財産から寄付する際には相続税の課税対象から除かれるなどの優遇が可能となる。個人や企業からの寄付が受けやすくなる。沖縄県内のNPO法人が421法人ある中(2010年3月末日)、最初の認定NPO法人となる。

3) CRM(コーズリレーテッドマーケティング- Cause Related Marketing -)の広がり

製品の売上によって得た利益の一部を社会に貢献する事業を行っているNPOなどの組織に寄付する活動を通して、売上の増加を目指すCRMの取り組みが沖縄県内でも広がっている。琉球ジャスコはオリジナル商品の売り上げの一部を民間ドクターヘリ「MESH」をサポートするNPO法人MESHサポートに寄付する活動を展開している。

近年では企業の社会的責任への関心の高まりを背景に、CRMに取り組む企業は増えている。NPOにとっては、継続的な資金調達の一つの手法として広がりが期待される。

4) 政府に「新しい公共」円卓会議が発足

「新しい公共」円卓会議とは、第173回国会における鳩山首相の所信表明演説に基づき、「新しい公共」という考え方やその展望を市民、企業、行政などに広く浸透させるとともに、これからの日本社会の目指すべき方向性やそれを実現させる制度・政策の在り方などについて議論を行うことを目的として開催する会議。NPOの資金のあり方、法人制度、税制について検討されている。税制について議論している「市民公益税制プロジェクト・チーム」とも連携することとなっている。

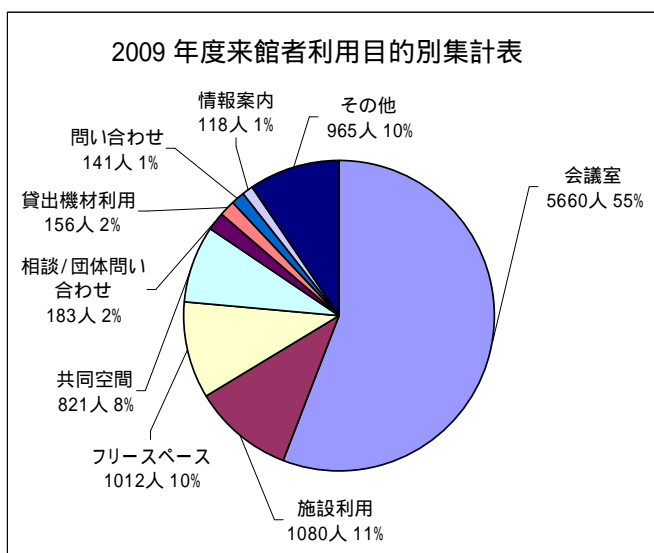
【円卓会議構成メンバー】

金子郁容氏(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)や福原義春氏(株式会社資生堂名誉会長)、谷口奈保子氏(NPO法人ぱれっと創始者・理事長)、大西健丞氏(一般社団法人CIVIC FORCE代表理事)ら、経営者や研究者、NPO/NGO関係者など19名で構成。内閣総理大臣や副総理、内閣官房長官、内閣府特命担当大臣(「新しい公共」担当)が出席。

1-5. 利用実態と利用者の声

1) 平成 21 年度来館者の利用実態

平成 21 年度の来館者数は 10,136 人で 1 万人を超え、毎月の利用者は平均して 844.7 人となっている。来館者数の利用項目で最も大きな割合を占めているのが会議室の利用である。会議室を無料で提供しているため利用者が多いと考えられる。次に多いのは施設利用であり、団体がイベント告知チラシや会議資料の印刷物などの作成を目的に印刷機・コピー機を利用している。



リーススペースは前年度の 753 人に比べ 1012 人と利用者が増加している。打合せや作業スペースとしての活用認知が広がり利用者数が増えていると考えられる。同じく共同空間も前年度の利用数 422 人から、今年度は 821 人と増加している。ブース貸出しを団体立上げ支援の「インキュベートブース」から日常的な活動支援として位置付けた「共同空間」へと変更したため、団体の活用頻度が高くなった。下記の月別の来館者数を見ると 7 月、9 月、2 月、3 月の利用者数が高い。秋口や年度末のイベントの多い時期に、会議室や印刷機コピー機などが利用されていると思われる。イベント次期以外での利用者数を上げることが課題である。

月別の来館者数

	H21 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
来館 者数	10,136	604	936	768	1067	795	955	908	746	585	777	950	1,045

(人)

2) 利用者の声

- ・リーススペースで作業ができていい。(施設利用者)
- ・会議室がもっとあればいいと思う。(施設利用者)
- ・利用者が自由に使えるパソコンがあれば、もっと利用しやすい。(施設利用者)
- ・放送を聴いた方からすぐに反響があり、応援の言葉もらった。(fmなは出演団体)
- ・団体の活動の様子をテレビで広報できるだけでなく、放送後にDVDをもらえるので、団体の紹介ツールとして役立つ。(発見!地域のチカラ出演団体)
- ・自分の団体がNPOとしてちゃんと機能しているのか考えさせられた。(講座受講者)
- ・会計の具体的な処理がきけてよかった。質疑応答があり、有意義だった。(講座受講者)
- ・センタースタッフや入居団体との会話の中で得る情報が大きい。(共同空間入居団体)
- ・今回の講座でNPOの活動(一部)組織など分かりよかったです(NPO塾)



第2章 特集  
NPOインフォメーション  
発見！地域のチカラ

NPOインフォメーション「発見！地域のチカラ」  
(株)OCN 沖縄ケーブルネットワーク  
×  
那覇市NPO活動支援センター  
NPOの活動現場を映像で届けるテレビ番組

NPOの広報・情報発信の支援として、当センターと(株)OCN沖縄ケーブルネットワークが協働し、県内で活動するNPO思いや現場の姿を撮影し、テレビコーナー「発見！地域のチカラ」として放送を行っている。放送終了後には、団体紹介のツールとして活用してもらえるよう番組DVDを取材団体に提供をしている。



目標として設定した、インターンスタッフ育成の一環としての役割を大きく果たした点が今年度の特徴である。年間12回放送分の番組制作コーディネートを各インターンスタッフが受け持った。また、沖縄国際大学からの短期インターンスタッフが担当した10月放送分「遺骨収集を雇用支援にNPO連絡協議会」の番組映像を、日本財団主催[第一回ドキュメンタリー動画祭]へ応募した。取材内容、コーディネートを通して各インターンスタッフが学んだ点などを紹介する。

#### 番組コーディネートの流れ

1. 担当インターンが取材したい団体を選びOCNと相談。取材団体を決定。
2. 取材撮影前に、事前に団体ヒアリングに行く。
3. ヒアリングにて取材撮影のスケジュールを決める。
4. ヒアリングをもとに「インタビュー&ナレーションシート」を記入し番組構成を考える。
5. 「インタビュー&ナレーションシート」を団体とOCN担当に送る。
6. 取材当日。代表者、事務局長、団体スタッフ等のインタビューを行う。
7. 当センターブログにて取材報告を行う。
8. 後日、放送内容のDVDを団体へ渡す。

#### インターンスタッフのふりかえり

- ・番組ができるまでの流れや番組を作る難しさを知った。
- ・世の中にある社会問題に関してもう一度考えていかなければならないと感じた。
- ・自分が引き出した答えから逆算してインタビュー内容を考えることで質問力も向上した。
- ・番組製作に関わるという初めての経験で緊張したが、常勤スタッフのサポートで最後まで取り組むことができた。
- ・めったに経験できない、貴重な体験であった。
- ・fm コーディネートと連動してOCNの取材団体を選べたので、団体との調整が行いやすかった。

団体取材を振り返って ～ インターンスタッフの取材体験記 ～

放送日：平成 21 年 8 月 18 日

【取材団体】オフィス心育て

話して、笑って、抱きしめて。

カウンセリングの場でもあるオフィスでの代表者インタビューと、子どもへの学習指導の様子、テンブス子ども劇団の練習風景を取材。

団体概要

引きこもりや不登校の子ども達、その親への支援として個人カウンセリングや、心の授業など、社会のソフトな面のケアを行っている団体。



子ども劇団練習時インタビュー

コーディネート後記 諸見 みどり（「環境から健康を考える会」エコット）



代表の岡村さんと北澤さんの力の合わせ方がとても印象的であった。

子どもたちとその周りの大人の関係をより良くしていくために、カウンセリングと、テンブス子ども劇団といった、劇の練習で子どもの心をはぐくみ、育て、発表や公演で子どもの成長を家族に知らせる方法は、とてもわかりやすく、客観的に自分の子どもを見る訓練にもなっていると感じた。

放送日：平成 21 年 10 月 6 日

【取材団体】遺骨収集を雇用支援にNPO連絡協議会  
土の中からの叫びが聞こえますか

遺骨収集作業の体験レポート、団体代表者、作業者へ取材。遺骨収集作業を通し生きる力を得ていく人の姿、沖縄戦を次世代に語り継ぐことの大切さを伝えた。

団体概要

沖縄戦の遺骨収集、格差社会・貧困という課題解決に取り組む二つのNPOが協働し、遺骨収集を雇用支援につなげている。



真嘉比の遺骨収集現場、取材風景

コーディネート後記

越智 哉太(沖縄国際大学 経済学部 3 年)

喜友名 優季(沖縄国際大学 経済学部 3 年)



遺骨収集作業は見ため以上に重労働だったが、参加者が終始笑顔を決して絶やしていなかったことが印象的である。収集された遺骨や武器等みて、生命の大切さを感じた。「私達は決して沖縄戦を忘れてはいけない」戦争体験継承の為に今できる事を行動すべきと感じた。

放送日：平成22年1月19日

【取材団体】NPO法人 沖縄ハンズオンNPO

### 失敗は、成功のだしの素！

沖縄市健康福祉部子ども家庭課委託事業である沖縄市出前児童館「キッズデポ」に参加。さらに、外国人コーチが教えるベースボールクラブ取材。子どもたちとの交流を深めながら体験レポート。

#### 団体概要

「ハンズオン」(触ってみて初めてわかる・学ぶ)をモットーに、子どもたちに学びや遊びのプログラムを提供している。



前児童館、取材風景

#### コーディネーター後記 牧志 朝英(琉球大学 工学部3年)



子どもたちのパワーに圧倒された。柔軟な発想で新しい物事を生み出す力、失敗を恐れずどんどんチャレンジする姿勢、これこそが社会を良くしていく大きな財産なのだと感じた。それに加えて、親・地域・行政が連携して、子どもを温かく見守っている様子が見られた。これが本来あるべき、まちの姿だと実感した。

放送日：平成22年3月16日

【取材団体】NPO法人 沖縄ホールアース研究所

### 地球と地域を元気にする環境コーディネーター

沖縄ホールアース主催により、県内で初開催されたアウトドア競技「平成22 沖縄ロゲイニング」に参加し、楽しみながら体験レポート。名護市内のチェックポイントをまわり、競技を通して地域の魅力を発見！

#### 団体概要

環境保全・地域振興・まちづくり・子どもの健全育成、人材育成など、自然環境をキーワードに沖縄県内で幅広く活動。



「沖縄ロゲイニング2010」取材風景

#### コーディネーター後記 末吉 千草(沖縄国際大学 経済学部2年)



沖縄ホールアース研究所の提案するような、環境に配慮し見落とされがちな地域資源を「価値のあるもの」として多くの人にそれらの魅力を伝える取り組みが県内多くの地域で考案され、広がって欲しいと感じた。環境負担金として会参加費の一部が開催地域に還元される仕組みが面白い！

沖縄に生まれ育った私たちが積極的に自然環境に触れる機会を増やし、この魅力を体感し守っていく必要があると改めて感じた。

## 第3章 事業成果と課題

3-1.「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～

(社会貢献活動促進のための施設及び設備の提供事業)

**【趣旨・目標】**

多様な分野・人・組織が集い、そこでお互いにエンパワーメントされ、創造的で発信力のある活動を展開していける、様々な人が行き交う外に開かれた中継拠点とします。

**【今年度の事業部目標】**

センター利用者がお互いの情報やスキル・経験を交換するような場となるために、支援メニューの内容を見直し当センターに関わる人々を増やしていく。

**【今年度実施した取り組み】**

1) 施設利用者対応

施設管理運営のためのスタッフ配置

2) 利用者アンケート実施

期間：平成21年3月2日～3月31日

対象：センター利用者

3) NPOオフィス「共同空間」

入居団体

1. (特活)ホールアース研究所沖縄事務所
2. (特活)沖縄県工芸産業協働センター
3. (特活)メッシュ・サポート(10月より入居)
4. ライフ・ヒーリング(9月退去)

中間報告会及び交流会

平成21年10月20日

平成21年度活動報告会

平成22年3月16日

4) 相談業務

相談件数：167件(団体：150件、個別：17件)

相談対応検討会議

平成21年9月15日(火)

アドバイザー：岩田直子 氏

(沖縄国際大学 人間福祉学科准教授)

相談対応スタッフ研修

平成21年9月29日(火)

講師：稲垣暁 氏(センタースタッフ)

平成21年度第1回ケース会議

平成21：12月8日(火)

出席者：小阪、宮道、下地、那覇市職員

5) 人材育成

長期(半年・一年)インターン

那覇市NPO活動支援センターで働くスタッフをインターンとして位置づけ、市民活動に関心があり主体的に関わっていこうという人を募集し受け入れ、将来NPOで活躍する人材を育成する。

期間：半年～1年 人数：4名程

短期インターン

大学生の短期インターン受け入れ

1. 沖縄大学インターン受け入れ(1名)

平成21年8月20日・21日

2. 沖縄国際大学インターン受け入れ

平成21年8月31日～9月18日(5名)

インターン卒業報告&インターン説明会実施  
インターン期間終了前に、インターン生が企画運営する卒業報告会&インターン募集説明会を開催。NPOの説明からインターン体験談や学びを伝える。

・平成22年8月22日(前期インターン)

・平成22年3月5日(後期インターン)

6) NPOグッズ販売(自主事業)

NPOが制作販売しているグッズの販売

**【今年度の事業部総括】**

那覇市NPO活動支援センターの利用実態

那覇市NPO活動支援センターの来館者数は、

10,136人で平均約28人/日であった。利用目的

は、会議室 5,660 人が最も多く、次いで施設利用(印刷・コピー)1,080 人、フリースペース 1,012 人となっている。フリースペースの利用人数が昨年度よりも 300 人近く増えており、作業スペース、打合せスペースとしての認知が広がり活用されていると考えられる。

#### 相談業務について

相談対応スタッフ研修やセンターの相談体制検討会議、ケース会議を開催したことでスタッフの相談対応スキルアップになり、またセンターとしての相談対応の方向性を確認することができた。

昨年度は生活困窮者からの相談が多かったが、今年度は精神疾患関係の相談が多かった。センターには多様な相談が来るため、専門の相談窓口につなぐためには専門機関との連携を今後行っていく必要がある。

#### 人材育成について

ラジオ番組とOCNの団体コーディネートを活用したことで、インターンプログラムとして確立させたことで、コーディネート力や質問力などインターンのスキルアップにつながった。また、半年・1年のインターン終了後にはインターンが企画運営する「卒業報告会&次期インターン説明会」を実施したことで、これまでをふりかえることができ、次期インターンへのつながりもできた。今後は、当センターだけでの受け入れではなく、NPOと一緒にインターン受け入れの体制を整え、社会や社会課題に向き合う人材を育てるしくみが必要である。

#### NPOオフィス「共同空間」の利用実態

今年度から団体の立上げ支援から日常的な業務支援としての位置づけにかえることで、ブースの利用数が昨年度の 422 人から、今年度は 821

人とあがっており前年度の約倍の数となった。

センター利用度が高かったため入居団体同士顔見知りになり、お互いの情報交換ができた。課題として申請団体の少なさがある。募集時期を見なおし募集広報を強化していく。

センター利用者が年間 1 万人を超え、共同空間の利用も高まってきている。また、インターンとしてセンターに関わる人材も増え、多様な人が集まる拠点となってきている。センターに集う人々がお互いにエンパワメントされ、創造的で発信力のある活動を展開していくために、今後も利用者の声を拾い改善を行っていく。

3-2. 「課題解決のためのパートナーシップ」 ～協働のサポート事業～

(協働型まちづくりのための研修機会の提供並びに調査及び研修)

【趣旨・目標】

地域課題を解決するという共通の目標を持つ組織と組織が二人三脚でその目標に取り組んでいくためのサポートを行います。

【今年度の事業部目標】

指定管理期間である3年間を通じて取り組めるテーマを設定した外部講師の招聘とNPO同士による活動力・組織力向上の機会づくり、地域課題を共有する機会づくりを行いながら、市民と行政がより協働しやすい環境整備を行う。

【今年度実施した取り組み】

1) NPOマネジメント講座の実施

第1回「チーム一丸となって活動できる組織内コミュニケーション」

講師 古賀桃子氏(特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター代表)

第2回「非営利組織の運営に悩む事務局のためのスキルアップ講座」

講師 川北秀人氏(IIHOE代表)

第3回「はじめてのNPO会計 決算書の作り方と税務」

講師 大城逸子氏(大城税理士事務所所長)

2) アドバイザー派遣

うないネットワークなは

「遺骨収集を雇用支援に」NPO連絡協議会

NPO法人ふいーるど・ばわー

3) 那覇市NPO活動支援センター10周年記念事業～公益的なNPO、市民活動を支えるための資金支援～「みらいファンド沖縄」キックオフフォーラム 平成22年2月11日

4) NPO塾の開催

毎回奇数月、19:00～21:00開催

実施回数 11回、参加人数 56名(昨年度参加者97名)

講師 基礎：下地美香、法人設立：宮道喜一

5) おきなわ市民活動支援会議(1回/月)

6) IIHOE 協働環境調査

7) 協働の手引書事業

【今年度の事業部総括】

市民活動の啓発普及

NPO塾を2ヶ月に1回定期的に行うことで、市民活動・NPOへ関心を持つ層への働きかけを行うことができた。しかし、昨年度と同様に新聞の無料告知での広報を行ったが、参加者数は97名から56名と減っている。受講者をセンター利用者につなげていく仕掛けが不十分なので、その道筋を作っていく必要がある。出前講座の依頼はなかった。

昨年度に引き続き、NPO塾は常勤スタッフが講師を担ったが、今後学生インターンの学びの場として、学生をNPO塾のプログラムに組み込んでいくことも検討している。

協働パートナーの組織力アップ事業

アドバイザー派遣として位置づけ、NPOの事務局サポートを行う機会が3件あった。個別に関わることで、組織の課題や社会の課題を深く知ることができ、中間支援としてのニーズ把握という成果もあった。

協働講座

NPOマネジメント講座として、3本開催した。NPOの抱える課題や地域課題をねらった

テーマ設定を行ったが、反応が薄かった。新規の立ち上げ団体向けに行う基礎的なテーマの講座（ビジョン・計画づくり、マネジメント、会計・税務、等）と今起きている地域課題や団体の抱える課題に向き合うテーマ設定を整理したうえでの講座企画が必要である。

また、適切な協働を進めていくためには、NPO側の分野を超えた異分野ネットワークの構築が求められている。

#### 協働環境整備

IIHOE主催の04年・05年・07年に実施協力した「協働環境調査」に続いて、第4回目の「協働環境活用度調査」に協力実施した。那覇市においては、評価・ふりかえりのしくみが弱い現状が明らかになった。また、「那覇市NPO等との協働事業の手引書（仮称）」作成を行い、行政内における協働事業を進める上での課題整理を行った。

#### 10周年記念事業

那覇市NPO活動支援センター10周年記念事業として、那覇市NPO活動支援基金の検証からスタートした“公益的なNPO、市民活動を支えるための資金支援”についてフォーラムを行った。資金とNPOの情報循環を担っていくことを目的とした「みらいファンド沖縄」キックオフとも合わせて行うことで、那覇における市民活動の未来について議論を深めた。

事業計画にある取り組みを行うことができ、かつ協働環境活用度調査や協働の手引書作成に携わることで、協働の仕組みについての調査・整備も進めることができた。那覇市NPO活動支援センター10年の節目に合わせて、民間の支援組織が生まれ、今後連携を取りながら那覇市の市民活動・NPO活動の支援に取り組んでいく。

3-3. 「NPO情報市場」 ～集めて、伝えて、参加する～

(市民活動に関する情報の収集及び提供)

**【趣旨・目標】**

市民が地域課題解決に参加するために、NPOなど様々な情報を集積し、発信する場とする。

**【今年度の事業部目標】**

多様な市民が参加できる機会をつくりながら情報収集と発信を行っていく。情報発信のツールとしてホームページとブログを充実させる。

**【今年度実施した取り組み】**

1) 機関誌「まちからコラボ」の発行(3回/年)  
機関誌の取材、作成作業を通じて、NPOと行政の協働に関して情報収集と発信を行い、市民、NPO、行政職員に「那覇の協働事例」「那覇のCSR事例」などについて発信啓発をおこなうことを目的とする。

内 容(発行部数:1000部)

Vol.5

NPO 那覇市障がい者地域活動協議会  
行政 那覇市障がい福祉課

Vol.6

NPO 沖縄自然環境ファンクラブ  
行政 那覇市公園管理室

Vol.7

NPO 那覇市社会福祉協議会  
行政 那覇市福祉政策課

2) なはセンファイルの運用とデータベースの作成  
当センター内に、県内NPOの団体概要を掲載したファイルを設置し、常時、NPOの情報を収集し市民、行政、企業などに閲覧できるよう団体情報発信の支援を行う。

3) 資料・図書の貸し出し・閲覧

NPOに関する資料や図書を計画的に購入し、貸し出し及び閲覧に供する。

4) ホームページ、ブログの運営

センターの活動状況について情報発信を行う。

5) 市民活動団体PV作成事業(沖縄ケーブルネットワーク株式会社との協働事業)

沖縄ケーブルネットワークとの協働事業。NPOの活動現場を当センターインターンが取材し市民目線でNPOを伝える。おきなわニューストゥデーで毎月第3火曜に「発見!地域のチカラ」として放送。後日、DVDを団体へ寄贈。

年12回取材。

6) NPOヒトワク紹介事業(FMなはとの協働事業)

7) おきなわ市民活動NPO便利帳2010

沖縄県内のNPO、市民活動団体、ボランティア団体など社会貢献活動を行っている民間非営利団体の情報を収集。出版することにより広く団体情報を発信し、多方面(行政、企業、自治会、NPO、マスコミ)へのネットワークと事業連携を促進すること目的とする。

**【今年度の事業部総括】**

那覇市との協働事例

「まちコロ」編集会議にマスコミや有識者に入ってもらい、円卓取材の質問者としての役割や第三者的立場のコメントを得ることができた。NPOと企業の協働の特集コーナーを創設することができ、企業との協働のデータベースの第一歩を踏み出せた。特集している協働事例がどのような位置づけにある事例なのかという全体を俯瞰できる骨格を示していくことが必要である。特集事例からこれからの協働を進める上で何を生かしていくことができるかという総括が必要である。

「おきなわ市民活動NPO便利帳2010」発行

県内NPO法人、当センターが把握している任意団体、計760団体にアンケートを送付し、アンケート返信のあった302団体の情報を掲載。前回発行の便利帳より掲載団体数は増え、また、インターンが便利帳を使って団体に会いに行くプロセスを入れた記事を掲載したことで、内容の充実がはかれた。今後、学校図書館や行政、マスコミなどに活用してもらうようなしかけが必要である。

#### 市民参加の情報収集と発信

f mなでは、毎月担当インターンがテーマを決めて団体のコーディネートを行った。8月には那覇市NPO活動支援基金のユースコース助成団体に出演してもらい幅広い層の団体の情報発信ができた。OCNでも、毎月担当インターンを決め番組制作を行い、9月には短期インターンが担当した作品を日本財団の第1回ドキュメント動画祭にエントリーしネット上で団体活動の発信ができた。高校生がレポーターを行うなど、若者が参加をして情報を収集発信する機会が多かった。情報発信を行いたいインターンは多く、インターンとNPOを上手くつなぐことで、NPOが十分にできていない情報発信の役割をインターンが果たすことができるのではないかと。また、今年度めざしていた、ウェブ上での発信ができなかったため次年度はOCNと協議し、早期にウェブ上での発信をしていきたい。

なはセンファイルは、会議室を利用する団体に登録を促し登録推進を行ったため、昨年度より登録団体は増えた。来館者がセンファイルをみて情報収集する姿が多く見られるので、引き続き団体にはファイル登録を進めていき、また登録団体のデータ管理をウェブ上で管理し提供していきたい。

図書の貸し出しは、センターで勤めている本や講座等で講師が紹介する本を取り扱っていない

ため利用者のニーズに答えられていない状況がある。一度、貸出本を整理しなおし、ニーズに合った書籍をそろえていく必要がある。

HP担当のインターンを置き、これまでできていなかった、支援メニューやイベント情報などの更新を行った。サーバー管理を行っている那覇市とのやり取りに時間がかかり情報のスピード性には欠けるのが現状である。

なはセンファイルの団体情報やこれまでf mなは、OCNに出演している団体のデータをウェブ上で管理発信していけるよう次年度は、外部の中間支援組織と連携し団体情報を発信していきたい。

3-4. 「NPOゆいまーるファンド」 ～資金の再配分によって社会を変える～

(那覇市NPO活動支援基金助成事業)

【趣旨・目標】

市民のお金である基金が地域課題解決を行うNPOの活力と課題解決効果を最大限に発揮できるための資金投資を行っていきます。

【今年度の事業部目標】

ハード助成は、ハード整備のみでしか使用できないため事業を進めていくうえで資金的な難しさがうまれている。ソフト助成と併用して申請する団体を集める。新設されたコースコース(高校生コース10万円、大学・専門学生グループコース10万円)からの20の申請を目指す。

【今年度実施した取り組み】

1) 公益信託那覇市NPO活動支援基金助成事業運営委員会の開催

- ・7月3日(土)第1回運営委員会
- ・10月29日(木)第2回運営委員会
- ・2月26日(金)第3回運営委員会
- 第11回公開審査会の実施
- ・高校生グループ10万円コース：  
5団体(申請8団体 内3団体辞退)
- ・大学生専門学生グループ10万円コース：  
5団体(申請7団体)
- ・いっちょやったるぞ!20万コース：  
5団体(申請数7団体)
- ・ばっちりやったるぜ!50万コース：  
2団体(申請数11団体)
- ・明日をつくるビジョンをえがけ!  
100万コース：1団体

日時：平成21年7月3日(土)10:00～16:00

場所：てんぶすホール那覇ぶんかテンプス館4階

来場者数：150名(発表団体含む)

パネル展の実施：基金の活動実績を広く市民にアピール(沖縄県立図書館・石嶺児童館)

平成20年度助成事業報告会の開催

報告団体：8団体

基金説明会の開催

市内4ヶ所で実施(沖縄大学、若狭公民館、沖縄国際大学、那覇市NPO活動支援センター)

住民提案協働型まちづくり助成コース

助成金額：50万円～300万円(年間総額500万円)

申請団体：4団体(内1団体辞退)

基金その他関連行事

那覇市NPO活動支援基金 特別編

「NPO塾 基礎編・企画広報編・実践編」

平成21年度助成17団体向け説明会の開催

【今年度の事業部総括】

ソフト助成の運営について

高校・大学やユース支援を行っている大人に直接会って基金募集の話をしたことで新設であったコースコースにもしっかり申請があった。公開審査会ではユース団体のプレゼンが一般の申請団体へも刺激を与えていた。助成を受けた後のユース団体へのフォローができず、団体の中では申請事業が実施できない団体や大きな事業変更を行う団体がでた。事業を進める中で実施してくまでのフォローが必要である。また、20万、50万の助成団体に対しても助成後の連絡機会がなく、報告書があがるまで実施状況はわからない状況である。連絡を取るしくみをつくり事業を進めていく上での問題に対して支援をしていくことが求められる。

ハード助成について

公開審査会で、公開プレゼンテーションを行うことで申請団体の広報につながった。また、ソフ

ト助成と募集期間を同時期にすることで、ソフト助成とあわせた事業内容で申請する団体からの募集があり、団体にとってはソフト助成とハード助成をうまく利用して事業を推進することができたと感じる。しかし、ソフト助成事業と連動しているため、ソフト事業実施がおくれると、ハード事業の内容がかたまらないため、ハード助成の審査時期をおくらす事態となった。ソフト助成の実施がスムーズにできるようなフォローを行う必要がある。

#### 公開審査会の運営

昨年度より申請団体が増え、プレゼンテーションをするメンバー以外の客席も座り盛り上がった。しかし、申請団体関係者以外の参加者が少なかった。一般市民のNPOを知ってもらうきっかけとなるような仕掛けと呼びかけが必要である。

公開審査会当日スタッフをインターンスタッフとして位置づけをしたため、モチベーションの高いメンバーで運営することができスムーズな運営ができた。また、公開審査会後も、当日スタッフとして関わった学生がセンターの長期インターンとして関わることになりNPOの人材育成へとつなげることができた。

3-5. 「企業活力」 ～市民社会を変えるもう一つの力～

(企業の社会貢献活動促進のための事業)

**【趣旨・目標】**

企業という民間の力を地域課題解決に最大限に発揮できるよう、企業とNPOの対話の機会をつくっていきます。

**【今年度の事業部目標】**

県内企業との協働での事業実施と、社会貢献活動を行っている企業への取材を行い、現状と課題についての調査を行う。

**【今年度実施した取り組み】**

1) 地域公益ポータルサイト実現する会  
平成20年度より沖縄における地域公益ポータルサイトの実現に向けて企業(シーポイント、FMなは)、行政(沖縄県、那覇市)、NPO(アンビシャス)、中間支援(沖縄県ボランティア市民活動センター、那覇市NPO活動支援センター)による勉強会を実施した。今年度は地域公益ポータルサイトを実現するための財源の検討と申請を行った。

2) 企業とNPOのCSR事業調査  
当センター広報誌「まちからコラボ」において、企業とNPOのCSRコーナーを設け取材を行った。  
第1回:セカンドハーベストフードバンク沖縄×プロミスキーパーズ×なかむら食品  
内容:「食べ物がもったいない」でつながった  
第2回:福祉作業所×琉球ガラス村  
内容:仕組みづくりで仕事づくり  
第3回:社会福祉法人からし種の会×生活協同組合コープおきなわ  
内容:ハードルを越えてつかんだ働く場

3) JCフォーラム

那覇青年会議所事業である第58回日本青年会議所全国大会沖縄那覇大会 記念事業として、「NPOと企業のパートナーシップ in 沖縄」を開催。講師コーディネートから事例調査の選定まで、意見交換を行いながら実施。

**【今年度の事業部総括】**

今年度は、広報誌「まちからコラボ」でCSRコーナーをつくり企業の取り組みや、JCフォーラムについて企業側の社会貢献活動の情報発信を行った。取材やコーディネートを通じて企業側の意見交換を行ったが、社会貢献活動への取り組みの意欲がある一方、  
・どの様に社会貢献をやればよいのかわからない  
・信頼できるNPOが分からないといった声を聞いた。  
今後は、NPOと企業のマッチングといった機能が求められているため次年度においては県内の社会貢献活動を行っている企業のデータベース化を行う。

## 第4章 収支概要

第4章 収支概要

平成21年度 那覇市NPO活動支援センター収支決算書						
(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)						
					単位:円	
		金額	割合 (%)	内 訳	平成20年度 決 算	
	【経常収入】					
委託料金	指定管理料		14,954,000		14,828,000	
利用料金	会議室利用料金	78,715		クーラー使用料・クーラー代1000円/月6か月	74,300	
	インキュベート利用料	175,810		1団体4000円/月・	192,000	
	機材貸出料金	76,300			64,300	
	コピー機利用料金	989,399	1,320,224	コピー機(モノクロ・カラー)、印刷機	768,422	
その他	なはセン講座	111,684		3000円×13人、2000円×11人 その他	192,000	
	NPO塾など	29,000		500円×(58)人	110,395	
	書籍販売等	82,740		便利帳・共同売店売上	125,430	
	印刷紙代	152,335		用紙代	237,007	
	ラミネート、折り機	22,500			29,020	
	その他	1,370		雑収入(現金過不足)	7,480	
	フリーパス	642,100	1,041,729			
	<b>経常収入 計</b>		<b>17,315,953</b>		<b>16,628,354</b>	
	【経常支出】					
人件費	給料 手当(事業)	9,020,550			8,542,478	
	法定福利費	832,893			809,513	
	福利厚生費	64,950	9,918,393	57	52,820	
事業費	リース料	756,000		印刷機リース代・コピー機リース代PCリース代・メンテナンス	756,000	
	新聞図書費	84,850		県内新聞2社他、定期購読誌	89,300	
	通信運搬費	454,630		電話・郵送代・インターネット接続料	255,783	
	消耗品費	830,157		消耗品(印刷インク・トナー代)	838,998	
	事務用品費	204,178		事務用品		
	諸謝料	145,150		講師料	441,725	
	仕入高	666,852		図書・まきし共同売店物品	151,652	
	印刷製本費	717,770		まちなかコラボ・便利帳印刷代	202,950	
	会場費	100,832		講座会場	22,840	
	旅費・交通費	21,500		講師旅費・スタッフ交通費	197,824	
	会議費	15,314		会議お茶代	7,281	
	研修費	11,000		スタッフ研修	36,000	
	委託料	244,020		講師委託費		
	雑費	19,503	4,271,756	25	12,677	
	保険料				74,184	
施設管理費	施設共同管理費	1,740,440		てんぶす管理費及び修繕費積立金、駐輪場、フリーパス券	1,695,840	
	水道光熱費	345,238		電気料	311,027	
	修繕費	127,575	2,213,253	13	ブラインド修理	46,200
一般管理費			912,551	5	2,083,262	
	<b>支出合計</b>		<b>17,315,953</b>		<b>16,628,354</b>	

## 第5章 運営について

5 - 1 . 事業推進体制

当施設運営するためのスタッフを配置する。

那覇市 NPO 活動支援センター事業部

- 常勤：小阪亘、宮道喜一、下地美香
- 非常勤スタッフ：新垣知子（4月～3月）、東濱克紀（4月～9月）
- インターンスタッフ：諸見みどり（4月～3月）
  - 稲住光祐、藏増理沙（4月～8月）
  - 稲垣暁（4月～9月）
  - 末吉千草、牧志朋英（9月～3月）
  - 城間秋乃（10月～1月）
  - 親泊正樹（2月～3月）

5 - 2 . スタッフミーティング

那覇市NPO活動支援センターで勤務するスタッフ全員が集まって月に一度の情報の共有と事業の確認及び利用者対応などでの困ったことや対応について場とする。

- 第1回 4月14日（火）
- 第2回 5月14日（木）
- 第3回 6月17日（水）
- 第4回 7月15日（水）
- 第5回 8月12日（水）
- 第6回 9月16日（水）
- 第7回 10月14日（水）
- 第8回 11月10日（火）
- 第9回 12月8日（火）
- 第10回 1月12日（火）
- 第11回 2月9日（火）
- 第12回 3月10日（水）

## 第6章 資料編



平成21年度 那覇市NPO活動支援センター事業

	実施事業
「参加と対話のプラットフォーム」 ～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	施設利用者対応
	NPOオフィス「共同空間」の選定及びブースの運営
	市民活動に関する相談、情報提供
	人材育成(県内大学生インターン短期受入れ事業)
	利用者アンケートの実施
	NPOグッズ販売(共同売店)
	インターンと関西学院大学との交流会
「課題解決のためのパートナーシップ」 ～協働のサポート～	NPOマネジメント講座 講師:古賀桃子 氏
	NPOマネジメント講座 講師:川北秀人 氏
	NPOマネジメント講座 講師:大城逸子 氏
	アドバイザー派遣事業
	那覇市NPO活動支援センター10周年記念事業
	はいさい!NPO塾
	NPO映画上映会及び山田火砂子監督講演会の実施
	おきなわ市民活動支援会議への参加
	IIHOE協働環境調査(第4回)と協働パワーアップセミナー
	那覇市「NPO等との協働の手引書(仮)」策定支援業務
	NPO法人会計基準策定プロジェクト全国キャラバン in 沖縄
講座:児童館とNPOの連携によるプログラムづくり	
災害救援ボランティア推進会議	
「NPO情報市場」 ～集めて、伝えて、参加する～	機関誌「まちからコラボ」(協働・CSR)
	資料図書の貸出し・閲覧
	HPによる情報発信
	なはセンファイルの運用
	おきなわ市民活動NPO便利帳 2010 作成
	市民活動団体PV作成、団体広報支援事業
	FMなは「NPOヒトワク」団体紹介
「NPOゆいまーるファンド」 ～資金の再配分によって社会を変える～	公益信託那覇市NPO活動支援基金の運營業務
	・高校生グループコース 大学生グループコース新設
	・住民提案協働型まちづくり助成コース
	・公益信託那覇市NPO活動支援基金 基金運営委員会
「企業活力」 ～市民社会を支えるもう一つのカ～	ゆめきらきらマグネットコーディネート事業
	NPOと企業のパートナーシップ in 沖縄

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	
事業名	施設利用者対応（会議室・印刷機・フリースペース・エコペーパー等）	
計画	営利を目的とせず市民活動を行っている団体や個人に、施設提供や機材貸出を行っています。さらに、団体の自立支援としての事務スペースの貸出も行います。	
	目的	市民活動団体が必要としている印刷機などのオフィス機器を便利に低価格で提供する。多くの方に当センターを知っていただくための広報活動、より気軽に施設を利用できるような空間づくり、さらに情報や人の集まる価値のある場づくりに取り組む。
	概要	日 時 年中無休（年末年始を除く）359日開館 時 間 朝9時から夜10時 利用者数 10,136人（8617人）、 日平均 28.2人（約24人） 場 所 那覇市NPO活動支援センター スタッフ数 8名
	事業対象	社会貢献活動や市民活動を行う非営利の団体や個人
	プログラム （H20年度）	インキュベートブース貸出 4団体（4団体） 会議室貸出 5660人・613件（5004人） フリースペース提供 1012人（753件） メールボックス提供 599件の郵送物 施 設 ・印刷機 607件（584件） ・コピー機 401件（327件） ・紙折り機 40件（32件） 機材貸出 ・プロジェクター 133件（70件） ・スクリーン 55件（22件） ・マイク付きアンプ 30件（8件） ・テレビデオ、DVDデッキ 25件（13件） 相談件数 167件 NPO関連図書貸出 18件（39件） NPO関連書籍、グッズ販売 212件（141件） （ ）内は平成20年度の数字
	利用者の声	<b>施設の良い点</b> ・スタッフが親切なので助かっています。感謝!! ・宣伝できる。 ・わからない事を相談できる。 ・メールボックスが無料で使用できる。 ・市街地の中心にあるので、県外から来た利用の際、便利である。 ・NPO関係について相談できる。 ・フリースペースで作業ができる。 ・コピー機の使い方など親切に教えてくれる。 ・スタッフのサポートが良い。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所が便利でトイレも多いし、清潔で使い勝手が良い。車で来る人にも駐車場があるので便利である。</li> <li>・気楽さ</li> <li>・低料金の設定はもちろんのこと、予約等に関してもとても公平な方法に信頼がもてます。</li> <li>・駐車場が近い</li> </ul> <p><b>施設の改善要望の声</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の予約を2カ月以上前から受付してほしい。</li> <li>・駐車料金をもっと安くできないか。</li> <li>・利用者が自由に使えるパソコンがあれば、もっと利用しやすい。</li> <li>・UCBはウイルスの心配があるので、あまり使用したくない。</li> <li>・会議室が1か所だけなので、競争率が高く予約が取りづらいことがある。</li> <li>・NPO関連の資料や他の団体の活動をWebサイトで紹介する</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>できたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターの運営時間、環境、設備、雰囲気、料金の安さ、備品等の貸出には良い評価を頂けた。</li> <li>・非営利ではない印刷機の利用があったので、適切な対処する必要があるため、なはセンファイルへの申請を利用団体には必須にし、任意団体に対してはNPOであることの同意書をもらうようにした。</li> <li>・駐車料金が安くていいという声が多かった反面、機材の貸し出し等の短時間でも駐車料金がかかるのを不満に思う声もあった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より利用者に満足していただけるよう、利用者の声をヒアリングし、サービスやアメニティの向上に努める。</li> <li>・ベランダの緑化計画。</li> </ul>

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～																																															
事業名	NPOオフィス「共同空間」の選定及びブースの運営																																															
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に活動しているが事務所がないため、自宅を事務所にしており、スタッフの出入りや外部とのやり取りが困難である。</li> <li>・拠点がいないため活動が広がらない。</li> </ul>																																														
	目標	那覇市に関わる市民活動団体が、継続的な活動へ展開させるために必要な日常の事務機能支援として、事務スペースを一定期間利用できるNPOオフィス「共同空間」を設置する。																																														
実行	概要	<p>平成21年入居団体に関して</p> <p>入居募集期間 平成21年2月2日～2月23日</p> <p>選定会 平成21年3月6日(金) (那覇市NPO活動支援センター)</p> <p>募集数 4団体</p> <p>申請団体名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイランドボイス</li> <li>・(特活)沖縄県工芸産業協働センター</li> <li>・ライフヒーリング Life Healing</li> <li>・ペダリストクラブ プラネット・チャオ</li> <li>・(特活)ホールアース研究所 沖縄事務所</li> <li>・生涯学習なはまちプロジェクト</li> </ul> <p>平成21年度入居団体選定会評価集計表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>委員名</th> <th>アイランドボイス</th> <th>(特活)沖縄県工芸産業協働センター</th> <th>ライフヒーリング Life Healing</th> <th>ペダリストクラブ プラネット・チャオ</th> <th>(特活)ホールアース研究所 沖縄事務所</th> <th>生涯学習なはまちプロジェクト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>真喜屋</b></td> <td>14</td> <td>32.5</td> <td>29</td> <td>18</td> <td>35</td> <td>16.5</td> </tr> <tr> <td><b>仲田</b></td> <td>16</td> <td>31.5</td> <td>27</td> <td>23</td> <td>32</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td><b>大城</b></td> <td>16.5</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>13</td> <td>31</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td><b>末吉</b></td> <td>14.5</td> <td>26</td> <td>18.5</td> <td>19.5</td> <td>30.5</td> <td>17.5</td> </tr> <tr> <td><b>合計</b></td> <td><b>61</b></td> <td><b>111</b></td> <td><b>99.5</b></td> <td><b>73.5</b></td> <td><b>128.5</b></td> <td><b>61.5</b></td> </tr> </tbody> </table>					委員名	アイランドボイス	(特活)沖縄県工芸産業協働センター	ライフヒーリング Life Healing	ペダリストクラブ プラネット・チャオ	(特活)ホールアース研究所 沖縄事務所	生涯学習なはまちプロジェクト	<b>真喜屋</b>	14	32.5	29	18	35	16.5	<b>仲田</b>	16	31.5	27	23	32	12.5	<b>大城</b>	16.5	21	25	13	31	15	<b>末吉</b>	14.5	26	18.5	19.5	30.5	17.5	<b>合計</b>	<b>61</b>	<b>111</b>	<b>99.5</b>	<b>73.5</b>	<b>128.5</b>	<b>61.5</b>
		委員名	アイランドボイス	(特活)沖縄県工芸産業協働センター	ライフヒーリング Life Healing	ペダリストクラブ プラネット・チャオ	(特活)ホールアース研究所 沖縄事務所	生涯学習なはまちプロジェクト																																								
<b>真喜屋</b>	14	32.5	29	18	35	16.5																																										
<b>仲田</b>	16	31.5	27	23	32	12.5																																										
<b>大城</b>	16.5	21	25	13	31	15																																										
<b>末吉</b>	14.5	26	18.5	19.5	30.5	17.5																																										
<b>合計</b>	<b>61</b>	<b>111</b>	<b>99.5</b>	<b>73.5</b>	<b>128.5</b>	<b>61.5</b>																																										
		<p>選定結果 3団体の入居決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(特活)沖縄県工芸産業協働センター</li> <li>・ライフヒーリング Life Healing</li> <li>・(特活)ホールアース研究所 沖縄事務</li> </ul> <p>入居前オリエンテーション 平成21年3月25日</p> <p>平成21年度入居団体(再公募)</p> <p>入居募集期間 平成21年5月11日(月)～5月18日(月)</p> <p>選定方法 那覇市NPO活動支援センターによる応募書類審査によって選定。(設置規程「2-2(5)年度途中の入居団体の選定について」による)</p> <p>募集数 1団体</p> <p>申請団体名 (特活)メッシュ・サポート</p> <p>選定結果 (特活)メッシュ・サポートの入居決定</p> <p>2009年10月「ライフヒーリング Life Healing」退去</p>																																														

		<p>退去理由：団体運営が厳しいため                  中間報告会及び交流会 平成 21 年 10 月 20 日                  平成 21 年度 途中退去に伴う入居団体公募                  入居募集期間 平成 21 年 10 月 9 日(金)～11 月 11 日(水)                  選定方法 那覇市 NPO 活動支援センターによる応募書類審査                  によって選定。(設置規程「2-2(5)年度途中の入居団                  体の選定について」による)                  募集数 1 団体                  申請団体名 (特活)メッシュ・サポート                  選定結果 (特活)メッシュ・サポートの入居決定                  NPO オフィス「共同空間」は 1 団体 1 ブースへの                  入居を原則としているが、年度途中の退去ブースが                  出たための特例として、1 団体が 2 ブースを利用す                  ることを認める。                  平成 21 年度活動報告会 平成 22 年 3 月 25 日</p>
	入居団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(特活)沖縄県工芸産業協働センター</li> <li>・ライフヒーリング Life Healing (平成 21 年 10 月退去)</li> <li>・(特活)ホールアース研究所 沖縄事務所</li> <li>・(特活)メッシュサポート</li> </ul>
	事業対象	県内 N P O、市民活動団体
	入居期間	2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日
	利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体のスタッフが不在の場合、対応してもらっているので助かる。</li> <li>・フリースペース、会議室が無料で使えて手続きが簡単。</li> <li>・情報も集まり、人とのコーディネートがあるので助かる。</li> <li>・共有スペース会議室無料で使えて、手続きが簡単。</li> <li>・センタースタッフとの何気ない会話の中で得る情報が大きい。</li> <li>・センターの場所がわかりやすいので他に案内しやすい。</li> <li>・遅い時間までセンターが開いているので助かる。</li> <li>・入居時は少ない荷物できたが、コピー機、印刷機などの備品が揃っ                  ているので助かっている。</li> <li>・センタースタッフに相談のってもらえるし、人や団体を紹介して                  もらえていい。</li> <li>・ボランティアネットワークがあるといい。</li> </ul>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に活動している団体を対象としての事務所貸しだったので、日入居団体には日々ブースを活用してもらえた。</li> <li>・入居団体スタッフの出入りが多かった。</li> <li>・入居団体がブースを活用していたので、入居団体同士顔見知りになり、お互いの情報交換ができた。</li> <li>・年度内に 2 回の追加募集を行ったが、申請数が少なかった。広報の仕方に工夫が必要である。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居団体同士の活動が日頃見えるしくみをつくり、団体同士のネットワークがつけられるようにする。</li> </ul>

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	
事業名	市民活動に関する相談、情報提供（団体・個人）	
計画	取組むべき課題	「NPOとは?」「任意団体とNPO法人とはどう違うか」「法人にと進められたが、メリット・デメリットは」といった、NPOに対する疑問を持った市民や「作ってみたが運営で戸惑っている」「『活発になったが、資金が足りない』『助成を受けるには?』」など、NPOマネジメントに悩む団体が多い。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の相談に答えられるよう情報を提供するスタッフのスキルアップを行う。</li> <li>・センタースタッフ間で相談ケースの共有をする。</li> <li>・NPOや行政、各相談機関との連携・協働・協力体制を確立する。</li> </ul>
実行	概要	<p>相談体制            情報提供1（既存情報からの対応）            *対応スタッフ：全員            *取組み：NPO基礎レジュメの作成「NPOとは」「NPO法人設立について」            「おきなわ市民活動NPO便利帳」からの団体紹介</p> <p>情報提供2（情報確認、情報収集を行って対応）            *対応スタッフ：事業スタッフ（小阪・宮道・下地）            *取組み：資料収集、ネット検索、センター主催のNPOマネジメント講座やNPO塾への案内</p> <p>相談対応（面談をして詳しい内容を聞き、対応回数がさねる）            *対応スタッフ：事業スタッフ（小阪・宮道・下地）</p> <p>専門家紹介（相談内容に答えられる人、団体を紹介）            *対応スタッフ：小阪            *取組み：税理士とのネットワーク、おきなわ市民活動支援会議（分野別支援機関との連携）</p> <p>個別相談対応（生活困窮者、精神疾患等の対応）            *対応スタッフ：小阪・宮道・下地・稲垣</p> <p>相談件数（2009年4月～2010年3月）            相談件数：167件            ・団体相談（NPO関連）：150件            ・個別相談：17件</p> <p>【相談対応検討会議】            日時：9月15日(火) 14:00～16:00            場所：那覇市NPO活動支援センター会議室            出席者：小阪、宮道、下地、稲垣            アドバイザー：岩田直子氏（沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科 准教授）            内容：相談対応の現状と課題をあげ、今後の相談対応の体制をどのように整えるのか検討。</p>

		<p>【相談対応スタッフ研修】          日時：9月29日（火）14:30～16:30          場所：那覇市NPO活動支援センター 会議室          参加者：センタースタッフ 6名          講師：稲垣暁（センタースタッフ）          内容：来談者の見極め、相談の4つの次元、相談におけるコミュニケーション、対話練習（インテーク）、問題解決の場面、肯定評価、励ましの場面、事例研究</p> <p>【第1回ケース会議】          日時：12月8日（火）11:00～12:00          場所：那覇市NPO活動支援センター          出席者：小阪、宮道、下地、伊波（那覇市）、松田（那覇市）          内容：団体からの相談に対する対応検討          センタースタッフ夕礼での相談ケースの共有          ・夕礼の中で「相談の報告」の時間をとり、各スタッフ一日で受けた相談内容・対応を報告する。</p>
	事業対象	一般市民・企業・行政・NPO
	利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「NPOとは何か？」から始まったが、関わってくると、やりたかったことにつながり、相談してよかったと感じた。</li> <li>・NPOについての理解につながる情報が得られた。</li> <li>・活動にあたり、どうしても壁となる、運営の仕方や、資金面でのやりくりで直面した際、相談したことにより、助成先の情報が得られたり、工夫の仕方を学んだり出来、運営をあきらめずにすんだ。</li> </ul>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センタースタッフが相談対応研修で学んだことにより、相談者を混乱させない工夫が出来るようになった。</li> <li>・夕礼での相談報告をすることで、センタースタッフのメンタルケアにもなり、また対応をきくことで他スタッフの対応力アップにもつながった。</li> <li>・那覇市職員を交えてケース会議を開いたことで、連携のとれた相談対応ができた。</li> <li>・相談機関連携はいまだとれていないため、相談があった場合どの専門相談につなげばよいかわからないことがあった。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センタースタッフは入れ替わるため、定期的なスキルアップ研修を行う。</li> <li>・引き続き、相談対応に困ったときは、那覇市を交えてのケース会議を開く。</li> <li>・専門相談機関とのネットワーク構築を行う。</li> </ul>

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	
事業名	人材育成（県内大学生インターン短期受け入れ事業）	
計画	取組むべき課題	NPO・企業・行政の協働が求められているが、将来の協働を担う若手人材の育成を行う場がない。また大学生も社会に出る就職活動企業の事前準備のインターンシップはあるが、その機会は一部の学生に限られている。またインターンシップは大手企業などで一部の職場体験的なものであり、学生が社会の課題を知り、解決していきたいという「NPOマインド」を育てることができていない。また民間企業以外のソーシャルの分野でのインターンシップを学生が体験する機会は少ない。
	目標	将来の協働を担う若手人材の育成を行うために、NPOマインドを持った人材育成プログラム（長期・半年間、短期・3週間）を開発し運営することを目標とした。短期プログラムでは沖縄国際大学と連携し夏休み期間中に行う単位認定のインターンシップに参加し3週間のインターンシップを行う。将来民間企業や行政に就職志望の学生にNPOの現場を知ってもらうことで、数年後にはNPO・企業・行政の協働が今よりも進むことを目標にする。また今年度は初めての取り組みであるので、次年度以降も継続してインターンの受け入れを行えるようにプログラムの振り返りと改善を行う。
実行	概要	日 時 2009年8月31日（月）～9月18日（金） 実施回数 3週間 参加人数 沖縄国際大学の学生5名 場 所 那覇市NPO活動支援センター スタッフ数 全員参加 準 備 物 インターン生向けの仕事
	講師	なはセンスタッフ研修：接遇（NPO法人脳文庫）
	インターン生	久貝 昇子 沖縄国際大学 法学部3年 西平真奈未 沖縄国際大学 法学部3年 喜友名優季 沖縄国際大学 経済学部3年 越智 哉太 沖縄国際大学 経済学部3年 豊里 明生 沖縄国際大学 産業情報学部3年
	プログラム	1.オリエンテーション 2.センター支援サービス（印刷機材等や受付）の説明 3.スタッフ研修「接遇」講師：喜久里美也子氏（NPO法人脳文庫） 4.インターンシップの目標設定 5.電話対応 6.2010年度版便利帳作成（NPO団体のピックアップ、集計） 7.特集記事作成（団体調べ、打ち合わせ、取材） 8.FMナハ見学、ブログアップ 9.OCN番組制作

	<p>利用者の声</p>	<p>【インターン生の声】          今回私たちを受け入れてくださったなはセンはNPOであり、NPOのインターンシップ受け入れは初めてということで、気を使っていたり、色んなお話を聞いたり、話す機会をいただけ自分の本当によい経験になりました。3週間という実習に入る前には長く感じ、不安も大きかったです。スタッフの方に優しくしていただき、本当に感謝しています。今回の経験を生かし、自分の将来性、就職について考え、行動していきたいと思いました。</p>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<p>【できたこと】          OCNの番組作成、便利帳作成          大学生にNPOを知ってもらうために、OCNの番組作成やNPO便利帳作成のための取材を行ってもらった。3週間という短い期間にも関わらず、自分たちで電話をかけて取材を行い、映像や紙にまとめることができた。          インターン終了後の報告会          自分たちが3週間で学んだことを発表する機会をあたえ、報告会を行った。自分たちの体験したことをまとめて自分の言葉でアウトプットすることで、気付きや学びの定着につながった。          インターン終了後のNPOとのつながり          3週間のインターンが終わったあとも、通常業務のサポートに関わってもらった機会があった。また、NPOに取材を行った学生が、「自分たちも何かできないか?」という問題意識につながり、衣類を集めて寄附をするという活動にも繋がった。          【できなかったこと】          汎用性のあるNPOインターンの仕組み作り          NPOと大学生をつなげることは両者にとって意味のあることであると思うが、NPO側の受け入れ体制が不十分である。今回初めて行われたNPOでのソーシャルインターンシップであるが、他のNPOでも受け入れができるような、汎用性のあるNPOインターンの仕組み作りが今後は必要になる。          学生による学生のコーディネーター          那覇市NPO活動支援センターでは、半年間の長期インターンシップが行われている。今回はセンターの常勤スタッフがインターン生の受け入れやサポートを行ったが、今後は長期インターンシップを行っている学生が短期インターンの学生を受け入れのサポートを行えるような体制を構築したい。</p>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<p>NPO・企業・行政の協働を進めていくためには、将来の協働を担う若手人材の育成が必要である。しかし大学生は社会との接点が少なく、協働を意識する「NPOマインド」を学生生活で育てることができない。将来の協働を担う人材を育てていくためにもNPOインターンの仕組み作りが必要になる。大学生はNPOとの接点は少なく、地域課題や社会の課題に問題意識を持つ機会は少ない。NPO・企業・行政の協働が求められているが、協働の最初の一步は、まずはお互いのことを理解し、社会課題を共有す</p>

		<p>ることである。今回は初年度で5名の大学生の受け入れを行った。今後は大学生のソーシャルインターンシップの裾野を広げるためにも、他のNPOや自治体と連携のあるNPOインターンのプログラムや仕組みを作っていきたい。また長期インターンシップを行っている大学生の研修や業務の振り返る時間を、月に一度はセンターの休館日（第4木曜日17時30分～22時）を設けて確保する。</p>
--	--	--

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	
事業名	利用者アンケートの実施	
計画	取組むべき課題	利用者目線での施設利用に関する問題点の洗い出し
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種サービス・事業毎に利用者が集まる機会に合わせて利用者会議を開催し、声を拾っていく。</li> <li>・当センター利用団体40団体以上から、運営側ではわからない施設の使用感をアンケート調査し、当センター利用の問題点を発見する。</li> </ul>
実行	概 要	<p>なはセン利用者アンケート実施</p> <p>アンケート期間：2010年3月2日～31日</p> <p>対象者：那覇市NPO活動支援センターの利用団体</p> <p>回答者数：25団体（29人）</p> <p>場 所：那覇市NPO活動支援センター</p> <p>アンケート内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 団体名</li> <li>2. お名前</li> <li>3. なはセンを知ったキッカケ</li> <li>4. 利用頻度</li> <li>5. 使用目的</li> <li>6. なはセンのこういった所が役に立っていますか？</li> <li>7. なはセンに直して欲しい改善点はありますか？</li> <li>8. あなたの所属する団体が活動している上で、困っている事がありますか？</li> <li>9. 現在なはセンを利用されていない方達にも、なはセンを利用させていただきたいと考えています。どのような呼びかけをしたら、なはセンを利用されていない方達が来てくれると思いますか？</li> </ol>
	利用者の声	<p>アンケートより抜粋</p> <p>【会議室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の予約を2カ月以上前から受付してほしい。</li> <li>・会議室の申込み期間が一カ月前からということですが、もう少し前からでも良いのではないのでしょうか？</li> <li>・会議室が1か所だけなので、競争率が高く予約が取りづらいことがある。</li> <li>・会議室利用団体の札（団体名・会議名）などがあれば、便利（初めて来る人にもわかりやすく、関係のない人が間違ってくることはない）</li> <li>・会議室でのダブルブッキングがないように（会議室の申込状況を以前はHPで更新していたがスタッフの負担になるし・・・）</li> </ul> <p>【駐車場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車料金が安い。メールボックス(郵便物の受取)だけでも200円かかるので、最初の20分だけでも無料だと助かる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場が学生には高い！</li> <li>・駐車料金をもっと安くできないか。</li> <li>【フリースペース】</li> <li>・利用者が自由に使えるパソコンがあれば、もっと利用しやすい。</li> <li>・掲示物、なはセンファイルなど勝手に見ていいのかわからないので、「ご自由にご覧ください」などの案内があったらいいと思う。</li> <li>・利用者が自由に使えるパソコンがあれば、もっと利用しやすい。UCBはウイルスの心配があるので、あまり使用したくない。メールで自由に送受信できたらいいなと思う。</li> <li>・FSにたくさん情報があるので、何に関する情報なのかコーナーを設けて欲しい。軽食などのサービスがあると、懇親会で利用しやすい。短時間だと駐車券が購入しづらい。</li> <li>【NPO講座基礎編】</li> <li>・2時間で一通りの説明をするのは時間が短すぎだと思います。もう少し長く時間をとられた方がよいのではないのでしょうか。</li> <li>【NPO会計講座】</li> <li>・受講前より会計への恐怖が無くなりました（笑）よい機会を提供していただきありがとうございました。</li> <li>・具体的な処理がきけてよかった。質疑応答があり、有意義だった。</li> <li>【その他】</li> <li>・この営業時間を続けて欲しい</li> <li>・NPO関連の資料や他の団体の活動をWebサイトで紹介する</li> <li>・他のNPO団体及びなはセン利用者とのつながりがいい（なはセンファイルがどう活用されているのか）もう少し話し合いできる場が欲しい。</li> <li>・共同空間の期間を長くして欲しい。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートを実施したことで、開館時間の長さや使用料金の安さ、会議室が無料であることが評価を受けていること、また駐車料金の高さや会議室が1つしかないことが改善点として多く挙がっている事がわかった。</li> <li>・目標にしていた当センター利用団体40団体以上からアンケートをとることができなかった。</li> <li>・利用者同士が話し合い、利用者の声を直接聞く利用者会議を開催することが出来なかった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<p>利用者会議をアンケート調査を行い、利用者から寄せられた施設利用に関する問題点から改善策を導き出し実行していく。</p>

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～																																												
事業名	NPOグッズ販売(共同売店)																																												
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO が開発または取り扱っているグッズ(商品)を販売する機会・場所が限られている</li> </ul>																																											
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店舗の再構築(店舗デザイン等)</li> <li>・ 納品から清算までの手順を整理確立する</li> <li>・ 新規団体を5団体増やす。</li> </ul>																																											
実行	概 要	取扱商品数 14品 今年度新規 3品(2団体) 商 品 数																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>商品</th> <th>団体名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>沖縄指笛</td> <td>NPO 法人アンビシヤス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>盲導犬Tシャツ</td> <td>NPO 法人 沖縄県盲導犬普及協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>オリジナルデザインTシャツ</td> <td>NPO 法人エイブルサポート つばさ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>守ろう命ステッカー</td> <td>辺野古座り込みテント村有志</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>一新力</td> <td rowspan="2">NPO 法人一新塾</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>道州制で日はまた昇るか</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>組織を育てる12のチカラ</td> <td>IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>対話でわかるNPO会計</td> <td rowspan="2">NPO 事業サポートセンター</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>NPO会計日誌</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>便利帳</td> <td>那覇市NPO活動支援センター</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>みーきゆるきゆる</td> <td>NPO 法人 まちなか研究所わくわく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>DVD軍隊がいた島</td> <td>沖縄戦記録フィルム</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>DVD沖縄戦の証言</td> <td>1フィート運動の会</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エッセ集CAP生活</td> <td>NPO 法人 おきなわCAPセンター</td> </tr> </tbody> </table>		商品	団体名	1	沖縄指笛	NPO 法人アンビシヤス	2	盲導犬Tシャツ	NPO 法人 沖縄県盲導犬普及協会	3	オリジナルデザインTシャツ	NPO 法人エイブルサポート つばさ	4	守ろう命ステッカー	辺野古座り込みテント村有志	5	一新力	NPO 法人一新塾	6	道州制で日はまた昇るか	7	組織を育てる12のチカラ	IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」	8	対話でわかるNPO会計	NPO 事業サポートセンター	9	NPO会計日誌	10	便利帳	那覇市NPO活動支援センター	11	みーきゆるきゆる	NPO 法人 まちなか研究所わくわく	12	DVD軍隊がいた島	沖縄戦記録フィルム	13	DVD沖縄戦の証言	1フィート運動の会	14	エッセ集CAP生活	NPO 法人 おきなわCAPセンター
			商品	団体名																																									
1	沖縄指笛	NPO 法人アンビシヤス																																											
2	盲導犬Tシャツ	NPO 法人 沖縄県盲導犬普及協会																																											
3	オリジナルデザインTシャツ	NPO 法人エイブルサポート つばさ																																											
4	守ろう命ステッカー	辺野古座り込みテント村有志																																											
5	一新力	NPO 法人一新塾																																											
6	道州制で日はまた昇るか																																												
7	組織を育てる12のチカラ	IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」																																											
8	対話でわかるNPO会計	NPO 事業サポートセンター																																											
9	NPO会計日誌																																												
10	便利帳	那覇市NPO活動支援センター																																											
11	みーきゆるきゆる	NPO 法人 まちなか研究所わくわく																																											
12	DVD軍隊がいた島	沖縄戦記録フィルム																																											
13	DVD沖縄戦の証言	1フィート運動の会																																											
14	エッセ集CAP生活	NPO 法人 おきなわCAPセンター																																											
販売方法		・原則委託販売(一部買い取り販売) ・委託手数料(販売価格の20%)																																											
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規の取り扱い商品が3品(2団体)増やすことができた。</li> <li>・ 納品から清算までのフローを作成し、手順を整理することができた。</li> <li>・ 店舗デザイン等の再構築やチラシのリニューアルは出来なかった。</li> </ul>																																											
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPOグッズを買ってもらえる広報のあり方を研究し、実践することを学生インターンプログラムとして行う</li> </ul>																																											

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	
事業名	インターンと関西学院大学との交流会	
計画	取組むべき課題	県という垣根を越えて、NPOに携わる大学生同士の繋がりを深める。
	目標	関西学院大学に在籍し、ソーシャルデザインファンドにインターン中の学生と、那覇市NPO活動支援センターに関わったことがある学生との交流会を開く。交流会を通して大学生がNPOと関わることの意義を感じてもらう。
実行	概要	<p>【NPOと大学生交流会】</p> <p>日時 平成21年11月16日(月)19:00～</p> <p>参加人数 9名</p> <p>場所 那覇市NPO活動支援センター会議室</p> <p>準備物 ワークショップグッズセット・CDラジカセ・ピースゲームセット</p>
	担当者	東濱克紀、牧志朝英、末吉千草、城間秋乃
	参加対象	<p>NPOに関わる学生やNPOに興味のある学生、または情報発信・社会起業について学んでいる学生。</p> <p>【主な所属】</p> <p>関西学院大学人間福祉学部社会起業学科 琉球大学法文学部総合社会システム学科政策科学国際関係論専攻 沖縄国際大学経済学部地域環境政策学科 など</p>
	プログラム	<p>【関西学院大学の学生が沖縄にくるまで】</p> <p>掲示板をたちあげ、この会の意義を再確認し、お互いに自己紹介。 (所属やどのようにNPOに関わっているのかなど。)</p> <p>【交流会】</p> <p>1. 他己紹介 (敢えて名刺交換をせずにお互いを会話の中から知る)</p> <p>2. ピースゲーム (ボードゲームをしながら日本や世界の文化・教養を得る)</p> <p>3. カタリバ (『今話し合いたいこと』をテーマにフリートーク)</p> <p>【打ち上げ】</p> <p>那覇市内居酒屋にてお互いの現状(どうやって自己形成されてきたのか)と、これからNPOを通じて大学生活をいかに過ごすか、大切にしている価値観などを語り合う。</p>
	参加者の声	<p>・沖縄と関西で離れているが、これからも交流を深めていきたい。</p> <p>・お互いの価値観について深い話ができただけで良かった。</p>
評価	目標に対してできたこと、できなかった	<p>・交流会で『今みんなで話合いたいこと』をブレインストーミングしてその後議題を絞りテーマに沿って話し合う予定だったが、ピースゲームの進行がはかどらず時間切れとなった。ピースゲー</p>

	こと	<p>ムが定めた目標を達成するための手段として、1時間近く時間を割くべきものではなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の大学生を上手く巻き込むことが出来なかった。広報不足。この交流会の意義を伝えきることが出来ず、当日キャンセルも2名出た。日にちすら伝わっていない学生もいた。</li> <li>・BGMをなはセンインターンで選曲をして流したり、お茶を用意したりと最低限のマナーを守ることが出来た。</li> </ul> <p>(社交性を身につける)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他己紹介がアイスブレイクに繋がった。</li> </ul> <p>(コミュニケーション能力、情報収集力、傾聴力の養成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観のものさしを広げることが出来た</li> <li>・大学だけでは出来ないような交流をNPOを通して持つことができた。</li> <li>・個々がNPOに関わる意義を本音で語ることができ、地域を変えるのは自分自身なのだという当事者意識が高まった。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学生向け広報の充実。チラシを製作する。</li> <li>・交流会のプログラムをもっと目標に沿ったものにする。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	なはセンのNPOマネジメント講座 チーム一丸となって活動できる組織内コミュニケーション	
計画	取組むべき課題	NPO活動が組織として成長していく過程では「ボランティアの悩みがわからない」「活動の方向性に迷いがある」「トップと現場の情報共有ができない」といった問題が出てくる。
	目標	組織内のボランティアなどのスタッフや会員、代表者間のコミュニケーションを改善していきたいと考えているNPOのスタッフを対象に、組織内コミュニケーションを切り口に上記課題を解決していく糸口をつかむこと。
実行	概要	日 時 2009年10月4日(日) 10:00～16:30 主 催 那覇市NPO活動支援センター(企画・運営:NPO法人まちなか研究所わくわく) 参加人数 6名(NPO法人なはまちづくりネット、保育すけっとinナハ、NPOカタヤピラ) 参加費 3000円(資料、テキスト代) 場 所 那覇市 繁多川公民館
	講師	古賀桃子氏(特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター代表)
	参加対象	組織内のメンバー間コミュニケーションに悩む那覇市内で活動するNPO
	プログラム	10:00-10:10 開会挨拶、インフォメーション 10:10-10:25 講師自己紹介&参加者自己紹介 10:25-11:10 レクチャー・その1 “NPOコミュニケーション概論” 11:10-11:15 休憩タイム 11:15-11:55 ワーク・その1 “我が団体のコミュニケーションの問診表を作ろう” 12:00-13:00 ランチタイム ～たっぷり栄養を取って、英気を養いましょう!～ 13:00-13:45 レクチャー・その2 “会議道” 13:45-13:50 休憩タイム 13:50-14:50 ワーク・その2 “あなたのお悩み、みんなのお悩み” 14:50-15:00 休憩タイム 15:00-15:30 レクチャー・その3 “古今東西 組織内コミュニケーション事情” 15:30-16:20 ワーク・その2 “寄らば文殊の知恵” 16:20-16:25 総括コメント 16:25-16:30 インフォメーション、閉会

	<p>参加者の声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段、目の前にある企画や事務作業に追われて頭の中を整理しようとする行動すらなかったので、今日できて良かった。</li> <li>・ 「見える化」はとても大事な作業だと感じた。</li> <li>・ 具体的に「見える化」するコツが学べた。</li> <li>・ 組織が組織として(会員不足)なりたっていない事に気付いた。</li> <li>・ スタッフ間のイメージ差をコミュニケーションして改善いくことを学んだ。</li> <li>・ コミュニケーションもマネジメントも一番大切なものは人に対する優しさや気遣いなんだということに気づけた。</li> <li>・ 個の人間として仕事をするので精一杯だったが、組織としての意識をしっかりと持とうと認識した。</li> <li>・ 情報共有と会議の進め方について実践してみたい。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座参加団体は活動が広がり、メンバーが増えてきている団体であり、増えていくメンバー間のコミュニケーションに悩みを抱えるメンバーであった。組織で起きている問題を見える化するワークを通じて、問題を認識することができ、参加者間で解決のアイデアを交換することができた。</li> <li>・ 広報が遅くなり、参加者が5名と少なかった。一方、少人数ならではの深まりが生まれた。</li> <li>・ 「組織内コミュニケーション」についてのスキルを必要としている団体がいることが確認された。講師からも「潜在的にもっといえるのでは。ほっとおいてはいけない」というコメントがあった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者からは「学生団体の運営」や「他のNPOの会議等、内部についてのぞいてみたい。悩みも共通していそう。」といった声が出ている。</li> <li>・ コミュニケーションは相互理解であり、理解しあえていない部分を「見える化」し、共有することで解決に向かうことが示された。今後もNPOの活動が広がる中で増えていく課題と思われるため、今回の講座の学びを日常の相談対応に生かしていく。</li> <li>・ 少人数でのピアカウンセリング形式の機会をつくっていくことも検討していく。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	なはセンのNPOマネジメント講座 非営利組織の運営に悩むNPO事務局長のためのスキルアップ講座	
計画	取組むべき課題	組織の課題課題解決力をつけよう！ こんな方はオススメ ・組織の課題解決に取り組みたいと考えている方 ・これからの団体の方向性について悩んでいる方 ・組織運営についてスキルアップしたいと考えている方 ・活動に行き詰まりを感じている方 今年の悩みは今年のうちに！団体活動の棚卸！
	目標	・NPOを運営するに当たり必要な課題解決力をつける
実行	概要	日 時 2009年12月20日(日) 10:00～16:30 参加人数 10名 参加費 3000円 場 所 沖縄産業支援センター 会議室304
	講師	川北秀人さん(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]) 1964年大阪生まれ。87年に(株)リクルートに入社し、広報や国際採用などを担当して91年退社。その後、国際青年交流NGOの日本代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIIHOE設立。NPOのマネジメントや企業の社会責任(CSR)への取り組みの支援を行っている。「NPOマネジメント」編集発行している。
	事業対象	NPO、NPO法人の事務局長及び理事 将来NPOの事務局長を目指している方
	プログラム	10:00 講義「市民団体運営に必要な12のチカラ」 11:15 個人ワーク「課題解決力をつけよう！」 12:00 昼食 13:00 続・個人ワーク「課題解決力をつけよう！」 13:15 グループワーク 「スクオーキングで課題解決の糸口を探す」 13:45 個人ワーク「対策案をつくる」 14:10 講義「ワークへのコメント、補足講義・質疑応答」 14:40 個人ワーク「課題解決のためのスケジュール作成」 15:10 全体ワーク「ポスターセッション」 15:40 講義 「ワークへのコメント・質疑応答・まとめ講義」 16:20 ふりかえり 16:30 終了
	利用者の声	・課題の細分化など、以前も同じ内容の講座を受けた覚えがありましたが、ついつい忘れてしまうものですね ・事業を推進していく上で難しいことは存在しない。何のために行い、現状と目標を認識し、その課題を埋めるために課題を細分化して行えばよいと認識できた

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の団体がNPOとしてちゃんと機能しているのか考えさせられました。</li> <li>・「担い手の成長」「行政が本気になるような仕掛けを作っていく」「目標からできていることを引くと課題」という言葉が印象に残りました。</li> </ul>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の課題設定と考えていたNPOからは来てもらうことができなかった。</li> <li>・有料講座ということもあるが、受講者数の伸び悩みが見られる。</li> <li>・講座の組み立て方について再考の余地がある</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外講師を呼ぶ講座の作成方法を変える必要がある</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	なはせんのNPOマネジメント講座 はじめての会計 決算書の作り方と税務	
計画	取組むべき課題	NPOの中では「これまで会計を担当したことがなく不安だ」「会計担当になったが決算書の作り方がわからない」「NPO法人の税務処理はどのように行うのか」など会計・税務処理で悩む会計担当者は多く、不安の中会計処理を行っている。そのため、処理がまちがっていることに気づかない。団体としてお金の流れ活動を伝えることができないため、市民からの信頼を得ることができない。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の活動が見えるような決算書の作り方を知る。</li> <li>・NPOに関する税務の基礎を知る。</li> <li>・団体の会計税務担当者の日々の悩みを聞き出し不安をなくす。</li> </ul>
実行	概要	<p>日 時：3月19日（木）10：00～17：00</p> <p>参加人数：10名（定員30名）</p> <p>参加費：2,000円</p> <p>場 所：沖縄産業支援センター 304 会議室</p> <p>広報活動：HP、ブログ、支援機関へしらし配布</p> <p>スタッフ数：3人（下地・小阪・新垣）</p>
	講師	<p>大城逸子さん（大城逸子税理士事務所）</p> <p>昭和46年3月沖縄県浦添市出身。平成7年横浜国立大学大学院国際経済法学研究科経済関係法修了。</p> <p>同時に税理士資格を取得。平成11年宜野湾市にて「大城税理士事務所」開業。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成12年より現在：学校法人 名護総合学園（名桜大学）非常勤講師</li> <li>・平成16年より現在：沖縄県建築審査会委員（NPO関連）</li> </ul> <p>NPO法人 NPO会計税務専門家ネットワークメンバー</p>
	事業対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計税務の基礎を学びたい方</li> <li>・NPOの会駅・税務業務について悩んでいる方</li> <li>・伝わる決算書を作りたい方</li> </ul>
	プログラム	<p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決算書書類（収支計算書、貸借対照表、財産目録）作成の仕方</li> <li>・NPO向けの会計ソフトの紹介</li> </ul> <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人の税金について（法人税・住民税・事業税）</li> <li>・法人市民税の減免の仕方</li> <li>・質疑応答</li> </ul>
	利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計がわかるとより法人の状況がみえてくると思いました。</li> <li>・受講前より会計への恐怖が無くなりました。</li> <li>・とても分かりやすく、決算書の見方が少しわかりました。新しく覚えた言葉もあったのでとても勉強になりました。</li> <li>・具体的な処理がきけてよかった。質疑応答があり有意義だった。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人税についてくわしく知った。</li> <li>・NPO法人としての提出書類が(義務)いくつあるのか、どこへ提出すればよいかわかりました。</li> <li>・とにかく行動することが大事だと感じました。また団体内部の職員の教育も大事だと考えました。</li> <li>・大変わかりやすく、いろいろ勉強になりました。最後の個別の質問回答はとてもよかったです。</li> </ul>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<p>できたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算書の作成練習が入っていたため、受けた講義を実践することができわかりやすかった。</li> <li>・講座の最後に参加者の悩みを聞く時間を多くとったので、それぞれの質問に対し答えることができた。参加者の満足度が高くなった。</li> <li>・団体の個別相談ではなく、ひとつのグループにして他参加者の悩みを共有することで、質問者からだけでなく他参加者からも質問があるなど、質問内容が深まり学びが大きかった。</li> </ul> <p>できなかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の講座の対象となる団体に呼びかけたか参加いただくことができなかった。開催時期・日時などの検討が必要。</li> <li>・参加者人数が定員よりも少なかった。どのような講座にしているのか講座プランをしっかりと立てる必要がある。</li> <li>・講師が会場を間違えてしまった。講座前日には、講師へ場所と時間の連絡を行う。</li> <li>・参加者に持参してもらうものの案内が前日になってしまった。講師へ準備物を確認し受講票を送るさいと一緒に案内するようにする。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に那覇市NPO活動支援基金の助成団体にも呼びかけをし、日頃の会計処理の講座を行い、年度末に決算書のつくり方の講座を行う。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	アドバイザー派遣事業	
計画	取組むべき課題	<p>相談事業では、NPO・市民活動の現場に行くことができないため、当センターに来ていただき相談者の情報をもとにアドバイスを行うことになる。そのため、相談者の状況しかつかめず、実際の取り巻く状況や人などが見えないため踏み込んだ相談内容の解決に結びつくのは難しい。</p> <p>当センタースタッフがNPOの活動現場に行きハズオンで支援することにより、相談内容の解決を行う。</p>
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が遂行できるよう運営等のアドバイスを行う。</li> <li>・組織の課題や社会の課題を知り、中間支援としてのニーズ把握を行う。</li> </ul>
実行	概 要	<p>うないネットワークなは 毎年うないフェスティバルを実施し、50団体ほどの規模の団体が集まる活動を行っており、その活動を支援する組織。今回25周年を迎えるが、世代交代が進まないなか活動が停滞している。</p> <p>役割 ・理事会に出席し、今後の活動や方向に向けてのアドバイス</p> <p>「遺骨収集を雇用支援に」NPO連絡協議会 沖縄県那覇市真嘉比地区の区画整理事業にともない、日曜ボランティア（無償）で実施している遺骨収集活動を沖縄県民とくに生活困窮者の雇用支援になるよう、また尊厳をもって遺骨を扱い遺品の身元確認につなげられるよう、NPOが主体となり行政との協働で行おうとするもの。</p> <p>役割 ・連絡協議会事務局(2009年2月24日設立)として NPO間の連携や関係するNPOへの呼びかけといった連絡調整業務、各種文書作成業務、マスコミ等への情報発信および対応、市民からの問い合わせ対応、行政への働きかけなどの後方支援業務、を行っている。</p> <p>NPO法人ふいーるど・ばわー 「工賃倍増計画支援事業」地域ネットワーク会議 工賃倍増計画支援事業：障害者の「工賃倍増5か年計画を推進するための基本的な指針」に基づき沖縄県障害保健福祉課、沖縄県セルフセンターが工賃倍増支援事業に取り組んでいる。 プロジェクト会議：コンサルティングの導入による工賃引き上げ目標の設定と改善計画の策定・計画の実行 地域ネットワーク会議：継続して工賃アップに資するために必要な専門家、福祉関係者、企業、行政の参加を得た地域ネットワーク会議を設置し定期的開催する。</p> <p>役割</p>

評価		<p>地域ネットワーク会議に出席し、NPOとのネットワークづくり、NPOの運営や事業づくりについてアドバイスを行う</p> <p>その他、助成事業、策定委員会など                  沖縄県協働募金会                  「沖縄県における協働募金運動のあり方検討委員会」</p> <p>独立行政法人福祉医療機構                  「地域活動助成」推薦審査委員会</p> <p>沖縄県労働金庫                  助成金審査委員</p> <p>那覇市社会福祉協議会                  第3次強化発展計画策定委員会</p>
	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOの専門家として、NPOに関わる助成審査や会議、また現場でのサポートを求められる機会が増えているが、センタースタッフの数も限られており全てをサポートすることは困難である。</li> <li>・NPOの社会における立場や環境を良くしていくためにはその用な場での意見が求められている。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なアドバイスを行っていくため、NPOの社会的立場、環境を把握するなど専門性を高めていく。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	那覇市NPO活動支援センター10周年記念事業 「社会で公益的なNPO・市民活動を支えるための資金支援とは」	
計画	取組むべき課題	那覇市NPO活動支援センターは、「拠点」と「資金」を両輪に市民活動支援を行ってきた。10年間の活動より、NPO・市民活動を支えるための資金支援おける課題について明らかにし、次の10年の資金支援策について考え、沖縄に市民立の財団が必要性と役割を考えることを目的とする。
	目標	・市民活動と支援する企業を後援団体に入ってもらい、企業サイドのネットワークをNPO支援に活かす為の枠組みをつくる ・市民活動を資金面で支援する財団の設立に向けて期待と問題点を議論する。
実行	概要	日 時 2010年2月11日(木) 13:00～17:00 参加人数 53名 (企業:10 行政:14 NPO:16 その他:3 スタッフ:10) 場 所 沖縄県立博物館 講座室 主催:みらいファンド沖縄設立準備会 / 那覇市(NPO活動支援センター) 協力:FMなは/地域情報エージェント株式会社/ NPO法人まちなか研究所わくわく
	講師	・対談 金森康(NPO法人ソーシャル・デザイン・ファンド 代表理事) 平良斗星(地域情報エージェント株式会社 代表取締役) ・報告提案 小阪亘(那覇市NPO活動支援センター)
	事業対象	・市民活動を資金で応援したい人・公益財団法人に関わりたい応援したい人・各助成金の担当者(プログラムオフィサー)・企業のCSR担当者・NPO・市民活動を行っている人
	プログラム	・対談:金森康×平良斗星 ・那覇市NPO活動支援センター10年(発表:小阪) ・提案:みらいファンド沖縄 ・アイスブレイク&意見交換(担当:宮道) ・パネルディスカッション
	利用者の声	・プロジェクトは、テーマ・人材・資金が大切。これをしっかりマネジメント出来るスタッフ育成がとても大切です。ぜひ、人材育成プログラムも考えてみてはいかが? ・NPO活動支援センター10周年おめでとうございます。設立当初から10年間の活動を含めて、よくぞ10年間続いたとの思いがしております。これからもがんばって下さい。 ・自治会と民児協と市行政窓口との連携が定期的にとれるような仕組みづくりが必要です。地域づくりに欠かせないと思います。
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	・協力団体にFMなは/地域情報エージェント株式会社に入ったことから企業関係者から10名の参加者を得ることができた。 ・NPOへの資金面での支援を支える為の仕組みづくりのスタートすることができた。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催がみらいファンド沖縄準備会との共催ということもあり、那覇市 NPO 活動支援センターの10年の振り返りとしては分かりにくかった。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団法人みらいファンド沖縄を設立を設立し、行政、企業、NPO が連携して NPO を資金面で支援できる仕組みをつくる。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～																																										
事業名	はいさい！NPO塾																																										
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“NPO”の認知度も上がってきたがまだ理解されていない。そのため活動するNPOの信頼性も薄い。</li> <li>・団体立上げに対する知識がなく立上げに不安を抱いている市民がいる。</li> <li>・「NPOとは何か」「どのようにして活動がスタートできるのか」NPOに対する疑問、知りたいニーズはあるが学ぶ機会がない。</li> </ul>																																									
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体立上げのスタートにつなげるようにする。</li> <li>・参加者の知りたいニーズを聞き出し、疑問に応えられるようにする。</li> <li>・県内で活動する団体を知ってもらい、参加者が市民活動に参加するきっかけとなるようにする。</li> </ul>																																									
実行	概要	<p>日時                      毎回奇数月、19:00～21:00開催                      (3月は基礎編 10:00～12:00、法人設立編 13:00～15:00)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基礎編</th> <th>参加者数</th> <th>法人設立編</th> <th>参加者数</th> <th>企画づくり広報編</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月15日</td> <td>11</td> <td>5月16日</td> <td>12</td> <td>5月29日</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>7月17日</td> <td>7</td> <td>7月24日</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9月11日</td> <td>4</td> <td>9月25日</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月6日</td> <td>1</td> <td>11月20日</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3月12日</td> <td>3</td> <td>3月19日</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						基礎編	参加者数	法人設立編	参加者数	企画づくり広報編	参加者数	5月15日	11	5月16日	12	5月29日	7	7月17日	7	7月24日	1			9月11日	4	9月25日	5			11月6日	1	11月20日	0			3月12日	3	3月19日	5		
		基礎編	参加者数	法人設立編	参加者数	企画づくり広報編	参加者数																																				
		5月15日	11	5月16日	12	5月29日	7																																				
		7月17日	7	7月24日	1																																						
		9月11日	4	9月25日	5																																						
		11月6日	1	11月20日	0																																						
3月12日	3	3月19日	5																																								
実施回数 11回 参加人数 56名 参加費 各講座：500円 場 所 那覇市NPO活動支援センター 会議室 広報活動 新聞無料広告、ちらし配布 スタッフ数 2名 準備物 当日資料、おきなわ市民活動NPO便利帳																																											
講師 ・基礎編：下地美香（那覇市NPO活動支援センター） ・法人設立編：宮道喜一（那覇市NPO活動支援センター）																																											
事業対象 ・NPOに興味、関心のある市民																																											
プログラム 基礎編「NPOって何ね？」（担当：下地美香） ・県内のNPO紹介（OCNのDVDにて紹介） ・「NPO」言葉の意味、NPOのしくみと財源について ・NPOの社会的位置づけ ・NPOとボランティア、NPOとNGO ・NPOの数と活動分野																																											

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ N P Oの社会的役割</li> <li>・ N P Oはじめるときのステップ</li> <li>・ 組織の過程「 P G O C」</li> <li>・ N P Oと出会う場、他機関と書籍の紹介</li> </ul> <p>法人設立編「 N P O法人の設立について」(担当:宮道喜一)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ N P Oの説明</li> <li>・ N P O法人説明、組織形態について</li> <li>・ N P O法人とは何か?</li> <li>・ N P O法人のメリット、デメリット</li> <li>・ N P O法人の設立要件</li> <li>・ 「社員」「総会」等言葉の意味</li> <li>・ 法人設立までの流れ</li> <li>・ 法人設立後の手続き</li> <li>・ 申請書などの書類紹介</li> <li>・ 定款について</li> </ul>
	<p>利用者の声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「 N P Oと立ち上げる」ことの体験や個人から立ち上げた活動、活動後みたいなものをどこかの N P Oさんに聞いてみたかった。</li> <li>・ 基礎がよく分かりました。</li> <li>・ 今回の講座で N P Oの活動(一部)組織など分かりよかったです。「設立の仕方」までを時間がかかっても一日の研修で出来れば、効率的に良いのでは?</li> <li>・ 2時間で一通りの説明をするのは時間が短すぎると思います。もう少し長く時間をとられた方がよいのではないのでしょうか。</li> <li>・ 手作り資料が分かりやすかったです。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座内でセンターについての説明の時間をとり使い方などを伝えたので、今後のセンターの活用方法をイメージできたのではないか。</li> <li>・ 自己紹介で聞きたい講座で聞きたいことを聞き出し、また講座途中でも質問を受け付けることで参加者の満足度は上がったのではないか。</li> <li>・ 受講後センターを利用する参加者がいない。活動始めたい参加者の支援につながっているかの検証ができていない。</li> <li>・ 参加者が秋口になると減って生きている。広報不足。広報の時間をしっかりととれていない。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の少ない秋口の開催を減らし、参加受講の高い春から夏の講座の開催回数を増やす。</li> <li>・ センタースタッフのスキルアップとして講師をインターンも経験させる。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	NPO映画上映会「筆子・その愛 天使のピアノ」及び山田火砂子監督講演会の実施	
計画	取組むべき課題	障害者が住みなれた地域で社会参加し、それぞれのライフステージにあったサービスを受けることができるよう、自立と社会参加に向けた取り組みが必要である。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児教育の重要性及びノーマライゼーションの実現に対する社会の理解と協力の輪が広がることを願い、ひとりでも多くの沖縄県民に周知・参加してもらう。</li> <li>・集客するために、前売りチケットを2000部販売する。</li> <li>・様々な障がいをもった方々やその家族にも楽しんで頂けるような工夫をする。</li> </ul>
実行	概要	<p>【実行委員会開催】</p> <p>第1回実行委員会 4月15日(水)18:00～20:30                  第2回実行委員会 5月13日(水)18:30～20:30                  第3回実行委員会 6月3日(水)18:30～21:00                  第4回実行委員会 6月12日(金)18:30～21:00                  映画上映会本番 6月14日(日)12:00～20:00                  映画上映会振り返り6月30日(火)18:30～21:00</p> <p>【NPO福祉上映会「筆子・その愛 天使のピアノ」及び山田火砂子監督講演会】</p> <p>日 時 2009年6月14日(日)12:00～20:00                  場 所 実行委員会 那覇市NPO活動支援センター会議室                  上映場所 那覇市民会館大ホール                  来場者数 1132名(第1回690名・第2回442名)                  実行委員団体                  沖縄パイロットクラブ、NPO法人なはまちづくりネット、NPO法人エイブルサポートつばさ、NPO法人ふれあいセンター、県立看護大学美ら笑ば～、沖縄国際大学ボランティアサークル、沖縄大学ノートテイク、沖縄大学の学生ボランティア、その他有志                  センタースタッフ 小阪・下地・稲住</p>
	講師	「筆子 その愛」山田火砂子監督(現代ぷろだくしょん)
	事業対象	市民、NPO
	プログラム	12:00～開場 13:00～15:00 第1回映画上映 16:30～16:45 音楽家による独唱 16:45～17:30 山田監督講演会 18:00～20:00 第2回映画上映
	参加者の声	(来場者の声) ・障がい児教育について考えさせられた。障がいがあるから何で

		<p>も手伝うのではなく出来ることは自分です。障がい児(者)の自立への大切な道だと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の女性がわが子だけでなく、すべての子どもに対して平等に愛情を持ち障がいの子に接する姿に深く感動した。</li> <li>・様々な苦難に合いながらも障がい児保育に取り組んだ1人の女性の生き方を通して深く感動した。</li> </ul> <p>(実行委員の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画上映会の実行委員に参加できて良かった。皆の力が各部署で発揮され、それが1つの大きな力となり集結した結果が、上映会の成功に繋がったと思う。</li> <li>・今まで知ることのない人たち、NPO、学生、団体、様々な年代の人たちと上映が成功するために協力できて良かった。</li> <li>・上映会を通し、交流、つながり、関係作りができたと思う。</li> <li>・他の団体を知ること、自分たちの団体も頑張ろうと思った。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画の内容は評判通り好評だったが、上映会を作り上げる側の実行委員として、各部署に別れ様々な工夫を出し合い、実現できたおかげで、来客者の声を聞いたところ満足のいく上映会を作り上げることができた。</li> <li>・手話やノートテイクを取り入れ、聴覚障がい者の方にも楽しんでいただくことができた。</li> <li>・子ども連れの家族のために、トランポリンやバルーンデコレーション、絵本読み聞かせ等のキッズルームを設置し、映画を集中して見ていただくことができた。</li> <li>・監督講演会の前に声楽家の独唱を加えた点、外にはブースやパネルを設け、団体の活動内容を知ってもらう機会とづくりなどできた。</li> <li>・途中で時間の変更やチケット等に関する変更があった。</li> <li>・映画を見ることのできない実行委員メンバーがいたため、映画を見る時間の確保や声掛けが必要であった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<p>今回の実行委員では、学生団体や様々な分野で活動する団体が参加し団体同士のつながりができた。今後このネットワークを他事業に活かしていく。</p>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～																											
事業名	おきなわ市民活動支援会議への参加																											
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内には多くのNPOが存在する。一つの支援機関ではすべてを把握することができない。</li> <li>・NPO、市民活動を支援する機関はあるが情報交換する機会・場がない。</li> </ul>																										
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ専門とするNPO、市民活動支援の情報交換を行い多様NPO活動の支援につなげる。</li> </ul>																										
実行	概要	<p>会議開催日時 毎月1回、10:00～12:00                      開催場所：沖縄県社会福祉協議会（沖縄県ボランティア・市民活動支援センター）                      会議運営の役割：「進行役・議事録・議題提案」を持ち回りで担う。                      実施回数 12回</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月14日</td> <td>小阪、宮道</td> </tr> <tr> <td>5月13日</td> <td>宮道、東濱</td> </tr> <tr> <td>6月9日</td> <td>下地、東濱</td> </tr> <tr> <td>7月15日</td> <td>小阪、下地、東濱</td> </tr> <tr> <td>8月12日</td> <td>宮道、下地</td> </tr> <tr> <td>9月8日</td> <td>小阪</td> </tr> <tr> <td>10月7日</td> <td>宮道、下地</td> </tr> <tr> <td>11月11日</td> <td>小阪、下地</td> </tr> <tr> <td>12月3日</td> <td>小阪</td> </tr> <tr> <td>2010年1月7日</td> <td>小阪、下地</td> </tr> <tr> <td>2月3日</td> <td>下地</td> </tr> <tr> <td>3月17日</td> <td>小阪</td> </tr> </tbody> </table> <p>参加機関 7団体                      ・那覇市NPO活動支援センター                      ・沖縄県社会福祉協議会（沖縄県ボランティア・市民活動支援センター）                      ・沖縄県NPOプラザ                      ・沖縄NGO活動推進協議会                      ・気候アクションセンターおきなわ                      ・JICA沖縄                      ・NPO 沖縄ホールアース研究所</p> <p>会議の主な議題                      ・各機関や団体の年間計画や活動状況の共有</p>	開催日	担当者	4月14日	小阪、宮道	5月13日	宮道、東濱	6月9日	下地、東濱	7月15日	小阪、下地、東濱	8月12日	宮道、下地	9月8日	小阪	10月7日	宮道、下地	11月11日	小阪、下地	12月3日	小阪	2010年1月7日	小阪、下地	2月3日	下地	3月17日	小阪
		開催日	担当者																									
		4月14日	小阪、宮道																									
		5月13日	宮道、東濱																									
		6月9日	下地、東濱																									
		7月15日	小阪、下地、東濱																									
		8月12日	宮道、下地																									
		9月8日	小阪																									
		10月7日	宮道、下地																									
		11月11日	小阪、下地																									
		12月3日	小阪																									
		2010年1月7日	小阪、下地																									
		2月3日	下地																									
		3月17日	小阪																									

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報活動の支援</li> <li>・ 各支援現場での市民活動やその課題についての情報・意見等の交換</li> <li>・ 県内NPOの動向について情報交換</li> <li>・ 公益法人制度改革について</li> <li>・ NPO法人会計基準策定プロジェクト全国キャラバン</li> </ul>
	担当者	小阪亘、宮道喜一、下地美香
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO 会計基準策定プロジェクトで協働したこと。センターの提案に基づき、県ボラセンも共催となり、支援機関会議も協働して実施できたことは大きな成果であった。</li> <li>・ 本会議については、他のセンターがどのような事業、どのような相談を受けているなど、動きが見えることがメリットである。</li> <li>・ 県内のNPOやNPOに関する動向など情報交換として有用だった。</li> <li>・ 勉強会のようなものがあってもよかったのではないかな。</li> <li>・ 講座やイベントの共有など、中間支援機関が何をやっているのかが勉強になる。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変化するNPO状況に合わせて、勉強会をもつなどする。</li> <li>・ 引き続き各支援機関の情報交換を行い効果的な支援につなげる。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	協働環境“活用度”調査（第4回）と協働力パワーアップセミナー	
計画	取組むべき課題	適切な協働を生み育てるための「自治体の基盤」整備について、行政内だけでなく、NPOも他自治体と共通の基準で進捗を把握することができない。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 04年・05年・07年に実施した「協働環境調査」に続いて、適切な協働を生み育てるための「自治体の基盤」整備の進捗を確認し、「協働しやすさ」を可視化すること</li> <li>・ 行政側の基盤整備の進捗の調査とともに、協働を促すしくみがどう「活用」されているかを把握すること</li> <li>・ 新たに、協働を促すための各種制度がどのように活用されているのか、「協働環境の活用の度合い」を調査し、制度の活用のための具体的な課題を明らかにする。</li> <li>・ 報告書刊行後に、各地域での改善を促すための「協働力パワーアップセミナー」（調査報告会を兼ねる）を開催する。</li> <li>・</li> </ul>
実行	調査概要	調査対象 沖縄県、那覇市、浦添市、沖縄市（第3回から継続） うるま市（第4回より新規）
		調査期間 2009年6月～10月
		調査主体 IHHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
	報告セミナー	報告セミナー 「一歩前進する為の協働力パワーアップセミナー」～言葉だけの「協働」、イメージだけの「協働」からの脱却。それぞれの自治体が目指す「協働」へ～
		開催日時 2009年12月21日（月）13:00～17:00
		開催場所 那覇市IT創造館 会議室
		講師 川北秀人氏（IHHOE代表）
		参加対象 住民と一緒に街づくりに取り組みたいと考えている行政職員、他の地域の協働事例を聞いて自分の街に活かしたいNPO関係者、将来、行政と協働して街づくりに関わりたい人
		参加人数 14名（行政5名、NPO6名、市民2名、企業1名）
		参加費 850円/人（テキスト代2150円別途）
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<p>県内の協働環境整備の進捗について以下のように把握できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に制度整備は進むが、しくみの活用は今後の課題</li> <li>・ 評価・ふりかえりが弱い 現場の成功・失敗経験が積みあがっていない</li> <li>・ 市民からの提案を受けるしくみが弱い</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働推進員（沖縄県・那覇市）の活用が課題</li> <li>・ 行政の個別事業への市民参加は進むが、組織化された市民との協働の推進はこれから</li> <li>・ ・市民活動支援（中間支援）と協働推進は両輪でまわしていくことが必要ではないか</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇市における協働環境の整備課題について、「協働の手引書」の更新・見直しの機会などを通じて、改善していく。</li> <li>・ 行政がわの環境整備だけではなく、NPO側の分野を超えた異分野ネットワークの構築を進めていく。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	那覇市「NPO等との協働の手引書(仮)」策定支援業務	
計画	取組むべき課題	本委託事業は、那覇市NPO活動支援センター事業とは本来別事業ではあるが、行政とNPOとの協働を考えた時、協働事業を取り組むNPOとの連携や協働事業事例に対する取材(広報誌まちからコラボ)など協働に対する多くの情報をもっていることから、協働の手引書作成において連携事業として実施した。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が必要としているのか?(当事者性)</li> <li>・協働の現場で生じている課題は何か(事例検証・見える化)</li> <li>・どのような内容のマニュアルが必要か?(選択と集中)</li> <li>・これらに対応できる協働マニュアル(仕組み化)</li> </ul>
実行	概要	<p>ワーキンググループの開催6回(11/25,12/22,1/26,2/16,3/16) (学識:2名NPO:6名 行政:6名)</p> <p>協働ミニ講座(12/21)(講師:川北秀人(IIHOE))</p> <p>協働シンポジウム (3/7,那覇市職員厚生会館ホール,参加者31名) (講師:川北秀人(IIHOE))</p> <p>パネラー:大城喜江子(NPO法人なはまちづくネット) 具志堅勝(障害福祉課) 末吉正幸(市民協働推進課) 小阪巨(NPO活動支援センター)</p> <p>協働に関するアンケート調査 アンケート回収率 行政:254件/2119件(回収率12.0%) NPO:52件/110件(回収率47.2%)</p>
	利用者の声	<p>ワーキンググループ参加団体の声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験的にもNPOとのかかわりがなかったが、勉強させてもらった。今後もっといろんな取り組みを広げていく上でも、もっと踏み込んだ形の理解必要、(知花)</li> <li>・いろんな情報ができたし、参考になった、NPOへの委託気をつけるところでの職員でも見れる手引き書に(神谷)</li> <li>・愛知の積算の期待!!次回に細かいのを期待、NPOの種類に関して多くの人が理解できるようにしたい(宮良)</li> <li>・協働担当の課に会う、宮古には意識が高まってきている、議会でも委託に関しての理解。次はより具体的に細かいものを(渡真利)</li> <li>・具体的な話しかからの勉強、今回出来なかったことは次回につなげる(佐藤)</li> <li>・日頃課題と思っていたことが共通で安心した。協働のマネジメント必要(具志堅)</li> <li>・協働推進にあまりかかわっていなかったが、今年かかわり、来年にはいなくなる・はたしてこれが良いのか?今回考えた。ちがう見方ができた(吉野)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は必要とわかっていても議論することは難しい、コミュニケーション仕組み期待。色んな部署一緒にすると難しい。教育関係はボランティア出ないと出来ない事業、しかしそれでは限られてくる、NPOも企業も行政も一緒になって協働を。(藤井)</li> <li>・NPOにはいろんな形態があり、課題がある。参加していない人にも伝わる(理解できる)ものの続編を(佐久川)</li> <li>・協働が紙面上だけではなく、協働推進課の力も大きい。ルールや手引き作成と一緒にかがわれることが出来たこと大きい。一方通行から双方になった。一緒に作ること大事(大城)</li> <li>・協働ルール事業には二つの意味が、1つはペーパー作ること、もう1つは人材育成。ペーパーがなくても感覚でこのようなことが出来る職員増やすのは次の課題。新現在はスタート、協働推進課責任もってつづけていく(末吉)</li> <li>・これがないのが理想、まだまだ積み上げは出来てないが今後また進めていって、いまの議事が普通になれば(伊波)</li> <li>・行政とNPOが一緒に出来たことが良かった、反省としてはもっと深い議論ができたなら良かった。今後こういう場を増やしたい。しっかりまとめる(小坂)</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の当事者である行政、NPOの協働経験者とともに協働の課題について議論し、解決手段について検討することができた</li> <li>・協働の課題が多岐にわたり日時的にも限られたなかでもあったので、協働の積算や評価といった部分に議論を深めることができなかった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、協働の手引書の活用方法や定期的な更新するための体制づくりについて考えていく必要がある</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	NPO法人会計基準策定プロジェクト全国キャラバン in 沖縄 ～とことん聞きます！！みんなの意見～	
計画	取組むべき課題	NPO法施行から10年、NPO法人の果たす役割に対して社会からの期待も大きくなっています。しかし会計処理がばらばらで理解されにくく、NPO法人の会計基準を作成して社会からの信用を高めることが課題となっています。2009年3月、全国のNPO支援団体による「NPO法人会計基準協議会」が設立され、専門家の協力も得て、会計基準案策定の協議が進められてきました。
	目標	2009年11月に発表される「中間報告案」について理解を深め、意見交換を行う。
実行	概要	<p>日 時 2009年12月10日(木) 18:30～21:00</p> <p>場 所 沖縄県総合福祉センター 東棟4階403研修室</p> <p>参加人数 76名(NPO:46 企業:2 税理士:8 など)</p> <p>参加費 500円(資料代)</p> <p>広報活動 おきなわ市民活動支援会議</p> <p>スタッフ数 おきなわ市民活動支援会議 7名</p> <p>主催：NPO 法人会計基準協議会、那覇市 NPO 活動支援センター (NPO 法人まちなか研究所わくわく)</p> <p>共催：沖縄県社会福祉協議会 (沖縄県ボランティア・市民活動支援センター)、気候アクションセンターおきなわ、NPO 法人沖縄 NGO センター</p> <p>後援：JICA 沖縄、沖縄県、ホールアース研究所沖縄事務所</p> <p>協力：おきなわ市民活動支援会議</p>
	講師	<p>脇坂誠也さん(NPO 法人会計基準策定プロジェクト副委員長)</p> <p>パネラー</p> <p>大城逸子さん(大城税理士事務所)</p> <p>照喜名通さん(NPO 法人アンビシャス)</p> <p>小阪亘(那覇市 NPO 活動支援センター)</p>
	事業対象	NPO 会計担当者・理事・監事、税理士、公認会計士、NPO・NGO 支援組織、市町村社会福祉協議会、行政職員、関心のある市民
	プログラム	<p>挨拶・本日の流れ・自己紹介・資料説明</p> <p>NPO 法人会計基準中間報告(報告：脇坂さん)(75分)</p> <p>休憩(15分)</p> <p>グループディスカッション(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に自己紹介とNPO 会計について思うこと</li> <li>・グループ A4 一枚「NPO 会計に対する期待と不安」(黄)「聞きたいこと」(青)</li> <li>・前に張り出す(15枚ほど)</li> </ul> <p>全体ディスカッション(45分)</p> <p>前に張り出したパネルをみながらディスカッション</p> <p>パブリックコメントの記入(5分)</p>

	<p>利用者の声</p>	<p>期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にでもわかる会計基準をぜひお願いします</li> <li>・専門書（指針となる物）を作成してほしい</li> <li>・全国的に様式を統一してほしい</li> <li>・委託事業で提出先によって様式が異なって困る。 （会計基準が早く決まるといい）</li> </ul> <p>困ったときは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない時にどこに問合せをしたらよいか知りたい。</li> </ul> <p>寄付の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少額で重要性に乏しいの少額っていくら？目安も</li> <li>・現物寄付で金額に換算する方法</li> <li>・ボランティア、軽微な現物寄付を数値化するのはボランティアの趣旨にそぐわないのでは？</li> </ul> <p>寄付の用途を詳しく知りたい（利用者希望）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確に会計資料に表現される様に</li> </ul> <p>法律</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 会計基準とその他関係する法律（例えば社会福祉法人など）の考え方について聞きたい</li> </ul> <p>個人的な質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・什器備品・備品・消耗品の違いと金額は？</li> <li>・NPO 法人の資産計上はいくらから？</li> <li>・事業費と管理費の仕分けを分かりやすくはっきりしてほしい</li> </ul> <p>根本的な視点として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画一的会計処理を行うのか？</li> <li>・NPO 活動を資本主義、経済体制の企業会計にあわせる必要はない。NPO の理念は何だったのか？</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おきなわ市民活動支援会議に参加する団体の協力があり、一体となって広報に取り組むことができた。そのため多くの団体に呼び掛けることができた。</li> <li>・当日の運営もおきなわ市民活動支援会議に参加する団体に協力してもらうことにより、支援機関に対しても NPO 法人会計基準策定プロジェクトの取り組みを広める良い機会となった。</li> <li>・参加申込みの時点で会計講座と勘違いしている参加者がいたが、申込時にコメントを寄せてくれていた質問に対しては、脇坂さんが報告会のなかで質問内容を紹介しながら答えていただいた。</li> <li>・人数が多いなかで意見交換として、パネルディスカッションとして、NPO の会計に取り組んでいる税理士と会計に対して意識の高い取り組みをしている NPO 法人の方にていただき、代表して質問してもらい、議論を深めることができた。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<p>NPO 法人会計基準策定プロジェクトの状況をみながら、会計基準の普及啓発に取り組む</p>

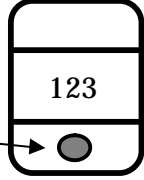
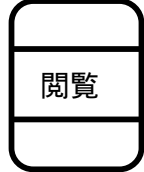
事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	児童館とNPOの連携によるプログラムづくり 子どもと地域が共に育ち合うために	
計画	取組むべき課題	子どもを取り巻く環境が多様化し、子どもたちと地域の方々が、共に地域の課題や良さに触れ合う機会が求められている。そのためには、次世代育成に関わる公共施設・機関やNPO、自治会等の地域の多様な主体による連携・協働によって、地域への愛着心を育むような“地域ぐるみで共に支え育ちあう”環境づくりが必要とされている。
	目標	地域において子どもの活動支援を中核的に担っている児童館等の機関とNPOのスタッフを対象に、子どもたちが自らの暮らす地域を知り、体験する中で愛着を育みエンパワメントされ、関わる大人たちも地域の課題に気づき、お互い学びを深め合えるような「地域を巻き込んだ児童館とNPOの連携によるプログラム企画」について学ぶ。
実行	概要	日 時 2009年10月5日(月) 10:00～16:30 主 催 那覇市NPO活動支援センター(企画・運営:NPO法人まちなか研究所わくわく) 社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会 参加人数 26名(6NPO8名、15児童館18名) 参加費 500円(資料、テキスト代) 場 所 那覇市総合福祉センター・会議室
	講師	古賀桃子氏(特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター代表)
	参加対象	子どもの活動支援に関心のある機関及びNPOのスタッフ
	プログラム	10:00-10:15 開会挨拶、インフォメーション 10:15-10:30 講師自己紹介&参加者自己紹介 10:30-11:40 話題提供“[児童館×NPO]の連携のツボ!～NPOはどこプロジェクト@北九州の取り組み～” 11:40-11:55 質疑応答 12:00-13:00 ランチタイム～たっぷり栄養を取って、英気を養いましょう!～ 13:00-13:50 [児童館×NPO]連携ワーク・その1 “お互いの特性を知ろう” 13:50-14:00 休憩タイム 14:00-15:10 [児童館×NPO]連携ワーク・その2 “連携をすすめるにあたって・・・” 15:10-15:25 休憩 15:25-16:20 参加団体交流会 16:20-16:25 総括コメント 16:25-16:30 インフォメーション、閉会

	<p>参加者の声</p>	<p>【児童館】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO への不安や協働するときの不安がコーディネーターがいることで解消されると感じた。</li> <li>・ 児童館・NPO の専門性をマッチングすると良い事業ができる。</li> <li>・ なはセンを通じていろんな NPO と協働してみたい。</li> <li>・ NPO という団体の様子がみえてきた。もっと情報のアンテナを広げていきたい。</li> <li>・ 今の児童館活動を再度ふりかえり、必要とされていることを整理し、NPO とコラボ企画の行事をしてみたい。</li> <li>・ 児童館の中にいると気がつかない得意・不得意分野を再確認させてもらった。</li> <li>・ 北九州の取り組みがわかり、自分達も NPO と連携していけると確信した。</li> <li>・ NPO の多さと活動の種類に驚いた。便利帳を有効活用したい。</li> <li>・ 館長にも話を聞いてもらいたかった。行動したいという思いを伝えられるか不安。</li> <li>・ 似たような悩みを皆が抱えていたことに驚きだった。</li> <li>・ 他団体との連携をとることの抵抗がやわらいだ。</li> </ul> <p>【NPO】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO の強みに気付かされた。</li> <li>・ 児童館のスタッフさんの思いや悩みを知ることができた。</li> <li>・ 強みと弱みをコラボすることで解決できることがあるかもしれない。</li> <li>・ 「地域との連携」という視点で児童館を巻き込んでいく可能性を感じた。</li> <li>・ 近隣の児童館に企画を持ち込んでみたい。</li> <li>・ 子どもの視点でより楽しく、ためになる活動に取り組んでいきたい。特に自然体験活動は是非取り入れたい。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働の第一歩として、NPO と児童館がお互いを知り合うという機会になった。</li> <li>・ NPO と児童館のお互いの強みと弱みを確認できた。</li> <li>・ 不安を出し合うことができた。</li> <li>・ 社協となはせんのコラボ講座を実現できた。細かな打ち合わせを積み重ね、役割分担までできた。</li> <li>・ 児童館の館長が市の研修と重なって来れなかった。職員が講座の内容を館長に伝えることのハードルは高い。</li> <li>・ NPO の参加がもう少し欲しかった。中身のうったえ方の工夫必要。</li> <li>・ 児童館の現場スタッフが企画づくりの段階で入り込めなかった。</li> <li>・ NPO への広報（メール・FAX・TEL）</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄県内の事例を通して学び、企画を実際につくる講座の機会をつくる。</li> <li>・ NPO と児童館の協働のコーディネート機能をどこまで担っていくか検討していく。</li> </ul>

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	災害救援ボランティア推進会議	
計画	取組むべき課題	那覇市では災害時に「災害ボランティア中央センター」を立ち上げ、那覇市社会福祉協議会が運営を担うことになっている。社会福祉協議会のみで災害時の要援護者支援を担うことは限界がある中で、平常時からの自治会や民生員を中心とした要援護者支援ネットワークづくりを「災害救援ボランティア推進会議」で行っている。災害時の対応について那覇市 NPO 活動支援センターの役割は明文化されたものはない。しかし、子どもや障がい者、高齢者など災害時の要援護当事者でつくられる NPO への支援という切り口から那覇市 NPO 活動支援センターとしての災害時対応を考えていく必要がある。
	目標	災害時対応と平常時の要援護者支援ネットワークの構築に向けた取り組みの方向性を見出す。
実行	日時と内容	第1回会議 2009年7月13日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画の取り組み</li> <li>・マニュアルを活用した研修及び広報活動の推進</li> <li>・自治会単位における小規模避難訓練の実施</li> <li>・災害時支援のための個人情報活用のあり方協議</li> </ul> 第2回会議 2009年12月4日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度これまでの取り組み</li> <li>・小規模避難訓練の実施</li> </ul> 首里大名町地域の避難訓練 2010年1月30日 第3回会議 2010年3月17日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度と首里大名町地域の避難訓練のふりかえり</li> <li>・次年度計画</li> </ul>
	設置主体	那覇市社会福祉協議会
	構成機関	那覇市消防本部（警防課）、那覇市総務課（市民防災室）、那覇市福祉政策課、那覇市地域包括支援センター、那覇市市民協働推進課、日本赤十字社沖縄県支部、沖縄県社会福祉協議会、NPO 沖縄自主防犯・防災協会、那覇市自治会長会連合会、市営住宅自治会長会連合会、那覇市本庁館内自治会長会、真和志自治会長連絡協議会、首里自治会長連絡協議会、小禄地区自治会長会、那覇市民生委員児童委員連合会、那覇商工会議所、社団法人那覇青年会議所、那覇市青年団体連絡会、那覇警察署、豊見城警察署、那覇市 NPO 活動支援センター
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	大名地域での小地域避難訓練を通じて、地域の中での支え合いのネットワークをつくっていくことの必要性を確認した。一方、地域での取り組みに要援護当事者の視点を取り入れる機会をつくりきれなかった。高齢者だけではない、要援護当事者の参加を促していく必要がある。
次への展開	次年度方針	小地域での避難訓練に要援護当事者 NPO の声や視点を入れる機会をつくる働きかけを行っていく。当センターの災害時の対応・立場を明確にする。

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～		
事業名	那覇の協働フリーペーパー「まちからコラボ」		
計画	取組むべき課題	<p>【NPO と行政の協働】那覇市においては、1998 年より第 3 次総合計画にて「市民との協働」を掲げ、2007 年度策定された第 4 次総合計画にも引き継がれている。この間、行政部局と NPO の現場では協働の取り組みは行われてきているが、その検証や取り組みの蓄積がされていない。また協働の現場では以下のような現状・課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 協働の必要性の理解が進んでいない。</li> <li>● 行政職員と NPO がお互いを知らない、理解できていない。</li> <li>● 行政や NPO など立場によって「協働」の捉え方や進め方のルールがないため、協働事業の推進がうまくいかない。</li> </ul> <p>【NPO と企業の協働】NPO と企業の協働の取り組み進み始めてきているが、事例として紹介される機会がない。</p>	
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民協働推進課は那覇市行政内、当センターはNPOの協働の窓口として、協働のコーディネーターやアドバイザー機能を果たしていくための行政内・NPO のネットワークづくりやノウハウ蓄積を行う。</li> <li>・これまでの協働の経験を協働を進めていくために取り組むべき次の展開のノウハウとして検証・共有する。</li> <li>・協働のルールづくりに活かせる基礎資料・人的ネットワークをつみあげる。</li> <li>・市民協働推進課となはセンの協働事業として取材や原稿執筆を行う。</li> <li>・編集会議は、外部の人材も編集メンバーに入ってもらいながら、客観的な視点も取り入れる。</li> <li>・行政と NPO の協働については、取材対象の行政と NPO が同席する場での共同取材を行いながら、取材対象の協働事業について議論する機会を持つ。</li> <li>・NPO と企業の協働の特集コーナーを創設する。</li> </ul>	
実行	概 要	発 行	那覇市 NPO 活動支援センター
		企 画 ・ 編 集	まちからコラボ編集室（NPO 法人まちなか研究所わくわく、那覇市市民協働推進課、徳田博人（琉球大学法文学部教授）、上間正敦（沖縄タイムス社編集局特別報道チームキャップ））
		発 行 回 数	年 3 回（Vol.5：11 月、Vol.6：2 月、Vol.7：3 月）
		発 行 部 数	1000 部
		体 裁	A4・6 ページ・フルカラーへ刷新（昨年度の A4・4 ページから 2 ページ増頁、発行回数を 4 回から 3 回へ）
		読 者 層	NPO との協働に取り組んでいる（取り組もうとしている）行政職員、企業と NPO
		配 付 先	なはセン、協働推進員、那覇市役所各課職員、

		那覇市内 NPO、その他
評価	紙面内容	<p>1) NPO と行政の協働事例 (Vol.5-Vol.7)</p> <p>これまでの NPO と行政の協働の取り組みについて、那覇市と NPO の両側面からの個別取材と「協働の円卓」という両者が同席した中での共同取材を行い、課題と成果を検証する。</p> <p>特集本文 / 協働の円卓 / 第三者の視点 / 那覇市協働推進課の視点 / なはセンの視点 / なはセン突撃隊 が行く！</p> <p>Vol.5 那覇市障がい者地域活動協議会 × 那覇市障がい福祉課</p> <p>Vol.6 沖縄自然環境ファンクラブ × 那覇市公園管理室</p> <p>Vol.7 那覇市社会福祉協議会 × 那覇市福祉政策課</p> <p>2) NPO と企業の協働事例 (Vol.5-Vol.7)</p> <p>これまでの NPO と企業の協働の取り組みについて、NPO と企業の両側面からの個別取材を通じて、取り組みを紹介する。</p> <p>Vol.5 フードバンクセカンドハーベスト沖縄 × NPO 法人プロミスキーパーズ × 株式会社なかむら食品</p> <p>Vol.6 沖縄の福祉作業所 × 琉球ガラス村 × NPO 法人ソーシャルデザインファンド</p> <p>3) ハイサイ！協働推進員です。(Vol.5-Vol.7)</p> <p>協働推進員紹介コーナー。協働の取り組みについて具体的に紹介。</p> <p>4) 行政職員のための NPO 講座 (Vol.5-Vol.7)</p> <p>行政職員が抱く NPO への疑問にこたえていく。4 コマ漫画を導入。</p> <p>5) 旬の協働はこう動く (Vol.5-Vol.7)</p> <p>現在進行中の NPO と行政の協働事業を各号3事例ずつ簡単に紹介していくコーナー。</p>
	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協働の手引き」作成ワーキンググループのメンバー選出に過去のまちからコラボで取り上げた事例を生かすことができた。</li> <li>・市民協働推進課との協働事業として取材や原稿執筆を行うことができ、まちコラ以外の事業を進める上でも定期的に顔を合わせてコミュニケーションを図ることにつながった。</li> <li>・編集会議にマスコミや有識者に入ってもらい、円卓取材の質問者としての役割や第三者的立場のコメントを得ることができた。</li> <li>・行政と NPO の協働について、「協働の円卓」コーナーで協働する両者が次に取り組むべき課題について掘り下げる機会を持てた。</li> <li>・NPO と企業の協働の特集コーナーを創設することができ、企業との協働のデータベースの第一歩を踏み出せた。</li> <li>・紙面構成に合わせ、文字数を減らし、読みやすくなった。</li> <li>・スケジュール通りに発行することができなかった。</li> <li>・協働の円卓コーナーや突撃レポートコーナーなどはなはセンインターンに任せることで、インターンが学ぶ機会となった。</li> <li>・ターゲットに届いているのか、読者の反応をとれていない。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集している協働事例がどのような位置づけにある事例なのかという全体を俯瞰できる骨格を示していくことが必要である。</li> <li>・特集事例からこれからの協働を進める上で何を生かしていくことができるかという総括が必要であり、協働の手引書の更新作業に反映させていくことが求められる。</li> </ul>

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～	
事業名	資料図書の貸出し・閲覧	
計画	NPOに関する資料を増やし、図書を計画的に購入し、貸出及び閲覧を促す。	
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOについての理解を広める意味で本の活用を促す。</li> <li>・貸出本の管理と整理。</li> </ul>
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOに関する情報を口頭だけでなく、文章で理解できる書籍を相談の後に進める工夫。</li> <li>・活用の仕方のアドバイス。</li> </ul>
	概要	<p>貸出図書：437冊                      閲覧図書：455冊                      今年度貸出図書登録冊数：4冊                      今年度閲覧図書登録冊数：5冊                      貸出冊数：34冊                      貸出図書の督促数：14人                      広報：「ブックログ」でのなはセン書籍・資料紹介、センター内で書籍紹介</p> <p><b>貸出図書登録</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貸出図書データベースに入力</li> <li>2. 書籍に図書ラベルと貼付</li> <li>3. 分野別シールを貼付</li> <li>4. 書籍を分野別に本棚へ陳列</li> </ol> <p><b>図書ラベル</b></p>  <p><b>閲覧図書登録</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 閲覧図書データベースに入力</li> <li>2. 書籍に閲覧ラベルを貼付</li> <li>3. 書籍を分野別に本棚へ陳列</li> </ol> <p><b>閲覧ラベル</b></p>  <p><b>貸出図書の督促</b>                      貸出期間の14日を過ぎ、貸出期間を40日以上経っても返却がない場合は、ハガキで返却の督促をする。</p>
	担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵増 理沙(インターン)</li> <li>・諸見みどり(インターン)</li> </ul>
事業対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民</li> </ul>	
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞いただけで理解したつもりになる。そんな時、本を借りていたら調べ直すことができた。</li> <li>・最近、書店にNPO本はかなり増えたが、これを全部そろえるわけにはいけないので、本当に欲しい本や必要な本かの確認ができるから良い。</li> </ul>	

<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人かの相談者には、貸し出し本の案内は出来た。</li> <li>・本が目的というより、タイムリーな情報を欲しがる利用者が増えたように感じられた。</li> <li>・活用の仕方のアドバイスは出来たが、それ以上のアピールにはつながらなかった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOのことを知りたい相談者に、借りられる本があることを相談終了後、アナウンスする。</li> <li>・利用者のニーズに合った本があるかアンケートをとり、活用のポイントを見出す工夫。</li> </ul>

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～	
事業名	HPによる情報発信	
計画	取組むべき課題	那覇市NPO活動支援センターおよび各NPO団体の活動を広報
	目標	センターおよび各団体の情報を公開することで利用者や支援者を増やし、団体の活性化やモチベーションを向上。 ブログを開設したい団体の開設支援や技術支援。
実行	概要	日時 随時更新 実施回数 HPアップ9回、ブログアップ数178回 参加人数 ブログ訪問者のべ7526人(H21 4/1～H22 3/31)
	事業対象	那覇市NPO活動支援センターおよび各NPO団体
	内容	ブログでは、FM那覇との共同事業「NPOヒトワク」とOCNとの共同事業「発見!!地域の力」の内容を番組作りに関わったインターネット生がブログを書き、ラジオやテレビの番組とインターネットのブログの二種類の方法を使って出演団体の情報発信を行っている。 ホームページでセンターの施設や利用料金を紹介している。
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	完了：ブログでの情報発信を行い、Podcastを利用してラジオ番組「NPOヒトワク」を流すなどを行った。 未完：各団体の情報発信のツールを扱えるようにする技術の提供。
次への展開	次年度方針	ブログを利用し、「NPOヒトワク」や「発見!!地域のチカラ」の番組内容の報告を継続して行う。 当センターのホームページを利用し、施設利用の仕方に関する情報を発信する。 現在まで当センターで収集してきた、沖縄県内のNPOに関する情報をデータベース化し、NPOポータルサイトの構築と運営を行う。

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～	
事業名	なはセンファイルの運用	
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が団体の情報を知るツールがまだ少ない。</li> <li>・NPOか否かはっきりしない団体が増えている中で、市民活動団体の基準をどう考えるのか。</li> <li>・一度登録はしたものの、中々情報が更新されない団体のファイルをどうするのか。</li> </ul>
	目標	センター内に県内NPOの団体概要を掲載してファイルを設置し、常時NPOの情報を収集し市民、行政、企業などに閲覧できるようにし団体情報発信の支援を行う。
実行	概要	登録団体数 117 団体 今年度登録団体数 17 団体 登録手順 1. 登録専用シートを記入。 2. 専用ファイルを準備し、リーフレットやイベントチラシ、新聞切り抜きなど団体情報を綴る。 3. 登録後、希望があればメールボックスの使用可能。 陳列方法 分野別棚と更新棚に分ける。 更新棚は最新更新順番にファイルをならべて置く。
	担当者	牧志朝英
	事業対象	県内NPO
	利用者の声	なはセンファイルを勝手にみて良いのかわからない。「見て良いですか？」と聞いてしまう。
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の情報収集で来所された方に団体紹介のツールとして活用してもらった。</li> <li>・当センターのインターンが登録団体の掲載されている新聞記事を切り抜きなはセンファイルにスクラップできた。</li> <li>・数年全く情報が更新されていない団体については複数団体を一つのファイルに統合した。よって、スペースを省くことができた。</li> <li>・センター利用団体、特に会議室利用団体は積極的に登録を促した。しかしながら、提出までに期間が空くなど、新規団体になはセンファイルの重要度を認知してもらうのに時間がかかった。更に言えば、同意書を求めるという時点で登録が強制的なものになってしまった。</li> <li>・申請書の記入日の記入もれが多かった。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ご自由にご覧下さい」といった看板を設け、より利用者にかかれたコーナーにする。</li> <li>・登録時に記入日の記入漏れがないか必ずセンターのスタッフが確認する。（記入漏れのないようにと利用者にも願います）</li> <li>・なはセンファイル申請書を、同意書ではなく、宣誓書にする。</li> </ul>

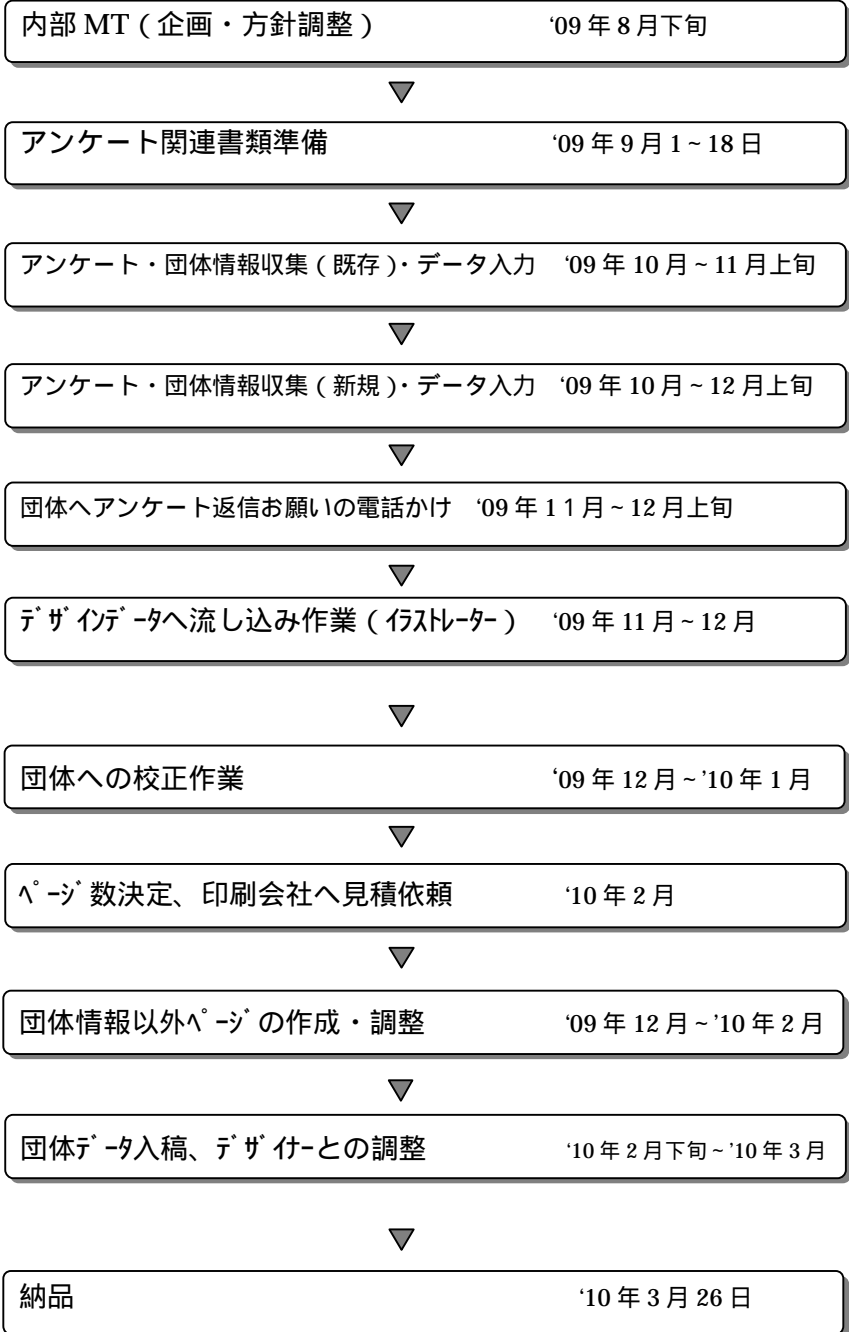
		<p>利用者自身が情報開示し、NPO宣言をすることで、非営利で活動していることを意識づけする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・なはセンファイルとおきなわ市民活動NPO便利帳との互換性を保つためにエクセルでのデータベース管理からウェブ上での管理に移行していく。</li></ul>
--	--	---

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～	
事業名	おきなわ市民活動NPO便利帳 2010 作成	
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の便利帳発行から2年が経過し、現在どれくらいのNPOが活動しているかわからない。最新の団体状況がない。</li> <li>・現在活動している団体の一覧を知ることができない。</li> <li>・便利帳を見て団体について知ることはできるが、連絡を取り合いに行くまでのしくみができていない。</li> </ul>
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2008年版の掲載団体数216団体を超える300団体を掲載する。</li> <li>・便利帳を見て、団体に連絡をし合いに行くまでのしくみをつくる。</li> </ul>
実行	概要	<p>発行部数：1,000部                  販売価格：500円                  仕様：A5版 246ページ                  掲載団体数：302団体                  （NPO法人：166、任意団体・その他法人：136）</p> <p>出版日：2010年3月                  発行：那覇市（NPO活動支援センター）                  企画編集：特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく                  内容：もくじより                  便利帳の上手な引き方                  NPOリストの利用にあたって                  情報PRシート実施状況                  おきなわ市民活動NPO便利帳をみて団体に会いに行こう！（学生インターン特集記事）                  NPOリスト（分野別・50音順）                  NPO情報コーナー                  ・那覇市NPO活動支援センター・沖縄県NPOプラザ                  ・沖縄県ボランティア市民活動支援センター                  ・沖縄NGOセンター                  ・気候アクションセンターおきなわ                  ・独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター</p> <p>索引                  ・所在地別・分野別・50音順                  NPOの“やるべきこと”8か条（コラム）</p>
	アンケート調査	<p>調査団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おきなわ市民活動・NPO便利帳2008年版」に掲載された団体</li> <li>・2008年版に掲載されていない県内で活動する特定非営利活動法人</li> <li>・センターに情報のある、県内で活動する任意団体</li> <li>・新聞やインターネット等で連絡先が公開されていた県内の任意団体</li> </ul> <p>アンケート期間：'09年10/1～12/4                  調査方法：アンケート書類を宅配メール便にて送付し郵便（受取人支払い）、FAX、e-mailにて回収</p>

	調査団体数	回答団体数	回答率
任意団体	356 団体	147 団体	41%
NPO 法人	404 団体	177 団体	44%
合計	760 団体	324 団体	43%

作業スケジュール  
(工程)

各団体・デザイン会社・印刷業者との調整



担当窓口 : 下地 (那覇市 NPO 活動支援センター)  
 デザイン会社 : ECCO  
 印刷会社 : (株) 東洋企画印刷

	販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇市 NPO 活動支援センター内</li> <li>・ 受注後の宅配（送料は購入者負担）</li> </ul> <p>情報提供協力団体へは、1冊ずつ贈呈。</p>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲載団体数が前回の 86 団体を上回る 302 団体数になった。</li> <li>・ 沖縄国際大学インターン生の取材プロセスや体験記事を掲載したことで、便利帳をみて団体に会いに行くまでのイメージしやすく、知るだけでなく会いに行くまでのサポートになったのではないかと。</li> <li>・ 沖縄国際大学の短期インターンが取材し、記事を書くことで学生のスキルアップになった。</li> <li>・ インターン生を含めスタッフで団体へアンケート返信電話かけをすることで、県内の団体の状況がわかった。</li> <li>・ 団体の事業規模やスタッフ人数、会員数等の分析結果を掲載する予定だったが、アンケートの質問項目がわかりづらかった。そのため、未記入が多く、また正確な回答が得られず、分析結果を載せることができなかった。</li> <li>・ 1月発行予定だったが、掲載団体への確認に時間がかかり3月発行に伸びてしまった。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データベースブックは発行せず、公益法人と連携しウェブで団体情報を提供していく。</li> <li>・ 支援機関で情報交換を行い、団体の最新情報を集めウェブの更新を行っていく。</li> </ul>

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～																																								
事業名	市民活動団体PV作成、団体広報支援事業																																								
計画	取組むべき課題	市民がNPO団体の存在や、活動を知るきっかけが少ない。 NPOは、広報手段が少ない。																																							
	目 標	・紹介するNPO団体がどのような社会課題に向き合い活動を行っているのか、視聴者である市民に伝える。 ・取材したNPO団体が、PRビデオとして活用できるように番組を作る。 ・番組コーディネートを通して、インターンスタッフの学びと成長の機会とする。																																							
実行	概 要	放送期間 2009年4月16日～2010年3月16日 放送日 毎月第火曜 19:00～おきなわニューストゥデー 「発見！！地域のチカラ」コーナー 放送時間 1団体5分～7分、 紹介団体 12団体																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>放送日</th> <th>団体名</th> <th>担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月16日</td> <td>コザ銀天大学</td> <td>金城 悠</td> </tr> <tr> <td>5月19日</td> <td>NPO法人 ハンディサポートふれんど</td> <td>稲住 光祐</td> </tr> <tr> <td>6月16日</td> <td>NPO法人 うていーらみや</td> <td>下地 美香</td> </tr> <tr> <td>7月14日</td> <td>NPO法人 メッシュサポート</td> <td>蔵増 理沙</td> </tr> <tr> <td>8月18日</td> <td>オフィスこころ育て</td> <td>諸見 みどり</td> </tr> <tr> <td>9月15日</td> <td>NPO 南風原平和ガイドの会</td> <td>東濱 克紀</td> </tr> <tr> <td>10月6日</td> <td>遺骨収集を雇用支援にNPO連絡協議会</td> <td>越智 哉太 喜友名 優季</td> </tr> <tr> <td>11月12日</td> <td>NPO カタヤピラ</td> <td>末吉 千草</td> </tr> <tr> <td>12月15日</td> <td>NPO法人 しまづくりネット</td> <td>諸見 みどり</td> </tr> <tr> <td>1月19日</td> <td>NPO法人 ハンズオンNPO</td> <td>牧志 朝英</td> </tr> <tr> <td>2月16日</td> <td>おきなわ共育ファンド</td> <td>城間 秋乃</td> </tr> <tr> <td>3月16日</td> <td>NPO法人 沖縄ホールアース研究所</td> <td>末吉 千草</td> </tr> </tbody> </table>	放送日	団体名	担当者	4月16日	コザ銀天大学	金城 悠	5月19日	NPO法人 ハンディサポートふれんど	稲住 光祐	6月16日	NPO法人 うていーらみや	下地 美香	7月14日	NPO法人 メッシュサポート	蔵増 理沙	8月18日	オフィスこころ育て	諸見 みどり	9月15日	NPO 南風原平和ガイドの会	東濱 克紀	10月6日	遺骨収集を雇用支援にNPO連絡協議会	越智 哉太 喜友名 優季	11月12日	NPO カタヤピラ	末吉 千草	12月15日	NPO法人 しまづくりネット	諸見 みどり	1月19日	NPO法人 ハンズオンNPO	牧志 朝英	2月16日	おきなわ共育ファンド	城間 秋乃	3月16日	NPO法人 沖縄ホールアース研究所	末吉 千草
		放送日	団体名	担当者																																					
		4月16日	コザ銀天大学	金城 悠																																					
		5月19日	NPO法人 ハンディサポートふれんど	稲住 光祐																																					
		6月16日	NPO法人 うていーらみや	下地 美香																																					
		7月14日	NPO法人 メッシュサポート	蔵増 理沙																																					
		8月18日	オフィスこころ育て	諸見 みどり																																					
		9月15日	NPO 南風原平和ガイドの会	東濱 克紀																																					
		10月6日	遺骨収集を雇用支援にNPO連絡協議会	越智 哉太 喜友名 優季																																					
		11月12日	NPO カタヤピラ	末吉 千草																																					
		12月15日	NPO法人 しまづくりネット	諸見 みどり																																					
		1月19日	NPO法人 ハンズオンNPO	牧志 朝英																																					
2月16日	おきなわ共育ファンド	城間 秋乃																																							
3月16日	NPO法人 沖縄ホールアース研究所	末吉 千草																																							
担当者	・インターンスタッフ（那覇市NPO活動支援センター） ・下地 美香（那覇市NPO活動支援センター常勤スタッフ） ・小村 文志（（株）沖縄ケーブルネットワーク ディレクター）																																								
事業対象	・県内NPO、市民活動団体																																								
取材の流れ	1．取材団体を検討 2．取材団体へ出演を依頼 3．出演団体決定をOCNへ報告し、団体と打ち合せの日程調整 4．打ち合せで団体のイベントなどを確認し、取材日の検討																																								

		<p>5. OCNと取材日程の調整を行い、取材日を決定する          6. 番組構成を考え取材シートを作成、センター内で共有する          7. 取材シートを取材団体、OCNへ送付し、取材日の流れと、インタビュー内容を確認してもらう          8. 取材当日、団体の活動撮影、関係者へのインタビュー、団体紹介のナレーション取りを行う。          9. インタビュアー、団体の正式名称、番組タイトル、などを団体に確認し、訂正など必要があればOCNへ報告する          10. 団体と取材の様子、番組放送に関する情報をセンターのブログで紹介する          11. OCNから番組DVDを資料もらい、取材団体へ受け渡す          (以上の流れを、常勤スタッフのサポートを得ながらインターンスタッフが執り行う。)</p>
	<p>取材団体の声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の活動の様子をテレビで広報できるだけでなく、放送後にDVDをもらえるので、団体の紹介ツールとして役立つ。</li> <li>・放送後すぐに、番組を見た知人や家族から反響があった。</li> </ul>
	<p>インターンスタッフの声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めったに経験できない、貴重な体験であった。</li> <li>・番組ができるまでの流れや番組を作る難しさを知った。</li> <li>・世の中にある社会問題に関してもう一度考えていかなければならないと感じた。</li> <li>・fm コーディネートと連動してOCNの取材団体を選べたので、団体との調整が行いやすかった。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約10人のインターンスタッフが、NPO団体の活動現場からそれぞれの取材団体に対する理解を深めた。</li> <li>・番組の構成を考える力、団体やOCNとの調整など、レポーターとして伝える力など、コーディネートを体験したことでインターンスタッフの学びと成長に繋がった。</li> <li>・関心のあるNPOの活動現場を見て、代表者や関係者にインタビューできたので、理解が深まった。</li> <li>・10月放送分の当番組を映像祭にエントリーし、ウェブ上で公開されたことでこれまで以上の多くの人への広報に繋がった。</li> <li>・番組放送後の団体へのDVDの受け渡しが遅かった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き人材育成の一環としての役割を強化していき、インターンスタッフの学びの場とする。</li> <li>・番組放送後、より多くの市民に見てもらえるよう、ウェブ上の動画共有サイトにアップし、誰もが映像を見ることが出来る環境を作る。</li> </ul>

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～	
事業名	FMなは「NPOヒトワク」団体紹介	
計画	取組むべき課題	沖縄県内で活動する多くのNPOや市民団体は自らの団体の運営に精一杯で、市民に活動の中身を知ってもらう機会が少ない。そこでラジオを通して、団体自らが市民に情報を伝えていく。
	目標	FMなはの「NPOヒトワク」を当センタースタッフがコーディネートし、毎週一回県内NPOや市民活動団体を紹介する。団体を知るきっかけや、活動への理解を深める機会とする。さらにインターンシップのプログラムとしてコーディネートの力を身につける。
実行	概要	<p>日 時 毎週金曜日 12:40～打合せ 13:00～13:15 収録生放送</p> <p>収録場所 FMなはスタジオ（沖縄県那覇市首里池端町 34-2F）</p> <p>実施回数 54回（52団体:86名）</p> <p>スタッフ数 月ごとに担当スタッフ1名、 FMなは ナビゲーター</p> <p>準備物 出演依頼書（団体情報の当日資料）</p> <p>パートナー 株式会社エフエム那覇（TEL:050-3539-1178）</p>
	プログラム	<p>フロー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月出演団体のテーマを決め、1ヵ月ほど前から出演候補団体と連絡を取り、4～5団体の日程の調整を行う。</li> <li>・当日、約20分程度の打ち合わせを行い、その後、収録生放送。収録の様子、感想を当センターブログにてアップする。</li> </ul> <p>主な質問内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体についての紹介（設立日、きっかけ、目的）</li> <li>・主な活動内容</li> <li>・活動を通してわかった問題点や課題</li> <li>・イベント等の紹介</li> <li>・団体のお問い合わせ先</li> </ul>
	出演者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送を聴いたかた方すぐに反響があり、応援の言葉をもらった。</li> <li>・ポッドキャストからいつでも何度でも聴くことができるので嬉しい。自分たちのブログに、そのまま貼り付けられるので便利。</li> <li>・団体の活動の紹介だけでなく、イベントの紹介・告知もできて良かった。団体が販売する商品告知にもなった</li> </ul>
評価	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打合せ等から収録までを通して、各団体のミッションや抱える課題がわかった。</li> <li>・パーソナリティーの打合せでの進め方（質問力）を学ぶことで、OCNでの取材時に活かすことができた。</li> <li>・興味のある団体と接触し、電話、FAX、メールなどの手段を</li> </ul>

<p>評価</p>		<p>用い日程調整をすることでコーディネートの力が身に着いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体とインターンが知り合うことは出来ているが、継続的な関係は築けていない。</li> <li>・イベントの告知を絡めているにも関わらず、イベント終了後にブログUPしたケースがあった。</li> <li>・ネットで検索すればわかるような表面的な情報に留まる放送も。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の出演前後でインターンが直接現場を訪問するなどといった積極的な働きかけが欲しい。</li> <li>・イベントの告知を絡めた出演団体は、最低でもイベントの数日前までにはブログUPする。</li> <li>・出演依頼書のフォーマットに縛られることなく、プラスアルファでコーディネーターの色を出した出演依頼書を作成する。インターンも打合せの場で積極的に発言し、より深い情報が引き出せるようにパーソナリティーと連携を図る。</li> </ul>

事業区分	「NPOゆいまーるファンド」～資金の再配分によって社会を変える～																																	
事業名	公益信託那覇市NPO活動支援基金の運営業務																																	
計画	取り組むべき課題	・課題解決に取り組む市民活動団体にとって事業を展開していく上で資金調達が困難である。																																
	目標	・幅広い広報を行い25団体の募集申請を目指す。 ・高校生コース10団体、大学・専門学生コース10団体の申請を目指す。 ・助成を取得した団体とのつながりを持ち活動支援を行い、助成をえられなかった団体にはその後のフォローを行う。																																
実行	概要	【基金関係行事】																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月17日</td> <td>2008年度助成事業報告会開催</td> </tr> <tr> <td>5月20日</td> <td>助成金説明会（若狭公民館）</td> </tr> <tr> <td>5月21日</td> <td>助成金説明会（沖縄大学）</td> </tr> <tr> <td>5月22日</td> <td>助成金説明会（沖縄国際大学）</td> </tr> <tr> <td>5月24日</td> <td>助成金説明会（那覇市NPO活動支援センター）</td> </tr> <tr> <td>5月25日、22日、29日</td> <td>はいさい！NPO塾“那覇市NPO活動支援基金募集期間特別版”</td> </tr> <tr> <td>5月19日～6月5日</td> <td>助成申請受付期間</td> </tr> <tr> <td>5月19日～26日、6月22日～29日</td> <td>「NPO知っ得パネル展」（沖縄県立図書館ロビー、首里公民館ロビー）</td> </tr> <tr> <td>6月24日</td> <td>申請団体説明会実施</td> </tr> <tr> <td>6月1日～6月15日</td> <td>公開審査会当日インターンスタッフ募集</td> </tr> <tr> <td>6月24日</td> <td>公開審査会当日スタッフ説明会</td> </tr> <tr> <td>7月3日</td> <td>公開審査会事前準備&amp;発表団体リハーサル</td> </tr> <tr> <td>7月4日</td> <td>公開審査会開催</td> </tr> <tr> <td>7月23日</td> <td>申請団体助成金相談会</td> </tr> <tr> <td>8月8日</td> <td>2009年度助成団体説明会</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	実施内容	5月17日	2008年度助成事業報告会開催	5月20日	助成金説明会（若狭公民館）	5月21日	助成金説明会（沖縄大学）	5月22日	助成金説明会（沖縄国際大学）	5月24日	助成金説明会（那覇市NPO活動支援センター）	5月25日、22日、29日	はいさい！NPO塾“那覇市NPO活動支援基金募集期間特別版”	5月19日～6月5日	助成申請受付期間	5月19日～26日、6月22日～29日	「NPO知っ得パネル展」（沖縄県立図書館ロビー、首里公民館ロビー）	6月24日	申請団体説明会実施	6月1日～6月15日	公開審査会当日インターンスタッフ募集	6月24日	公開審査会当日スタッフ説明会	7月3日	公開審査会事前準備&発表団体リハーサル	7月4日	公開審査会開催	7月23日	申請団体助成金相談会	8月8日	2009年度助成団体説明会
		実施日	実施内容																															
		5月17日	2008年度助成事業報告会開催																															
		5月20日	助成金説明会（若狭公民館）																															
		5月21日	助成金説明会（沖縄大学）																															
		5月22日	助成金説明会（沖縄国際大学）																															
		5月24日	助成金説明会（那覇市NPO活動支援センター）																															
		5月25日、22日、29日	はいさい！NPO塾“那覇市NPO活動支援基金募集期間特別版”																															
		5月19日～6月5日	助成申請受付期間																															
		5月19日～26日、6月22日～29日	「NPO知っ得パネル展」（沖縄県立図書館ロビー、首里公民館ロビー）																															
		6月24日	申請団体説明会実施																															
		6月1日～6月15日	公開審査会当日インターンスタッフ募集																															
		6月24日	公開審査会当日スタッフ説明会																															
		7月3日	公開審査会事前準備&発表団体リハーサル																															
		7月4日	公開審査会開催																															
7月23日	申請団体助成金相談会																																	
8月8日	2009年度助成団体説明会																																	
*各事業詳細は別添参照																																		
【2008年度那覇市NPO活動支援基金 助成内容】 申請期間 平成21年5月19日～6月5日 助成コースと申請団体数																																		

	<p><b>【ソフト助成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生グループ 10万コース：5 団体（申請数 5 団体）3 団体辞退</li> <li>・大学、専門学生グループ 10万コース：5 団体（申請数 7 団体）</li> <li>・いっちょやったるぞ！20万コース：5 団体（申請数 7 団体）</li> <li>・ぱっちりやったるぜ！50万コース：2 団体（申請数 11 団体）</li> </ul>																																				
担当者	下地美香、東濱克紀																																				
事業対象	那覇市民を対象とした社会貢献活動を行う市民活動団体																																				
プログラム	<p><b>【公開審査会】</b></p> <p>9:30 会場</p> <p>10:30 午前の部発表          高校生グループ 10万コース          大学、専門学生グループ 10万コース          いっちょやったるぞ！20万コース</p> <p>13:00 午後の部発表          ぱっちりやったるぜ！50万コース          市民提案・協働型まちづくり(ハード整備事業)コース</p> <p>15:10 平成 20 年度ベスト事業賞の表彰</p> <p>15:20 審査の部          助成団体の選定、発表          助成金交付証授与式</p> <p>16:00 NPO交流会</p>																																				
助成団体	<p>高校生グループ 10万コース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>決定</th> <th>申請団体名</th> <th>代表者名</th> <th>事業名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>高校生ボランティア Love &amp; Peace</td> <td>宮城 愛美</td> <td>那覇市クリーンアップ大作戦</td> </tr> <tr> <td>辞退</td> <td>募金フェスタ・ダンスプロジェクト</td> <td>窪田 圭悟</td> <td>高校生募金フェスタ～出来る事 2009～</td> </tr> <tr> <td>辞退</td> <td>那覇市子連ジュニアリーダークラブ Friendly(フレンドリー)</td> <td>金城 翔太</td> <td>KYT発展プロジェクト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>興南高校JRCインターアクトクラブ</td> <td>宮里 翔大</td> <td>英語の本を贈ろうプロジェクト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>プロジェクト未来なは・ムムヌチハンタープロジェクト</td> <td>知念 真子</td> <td>那覇市ローカルヒーローをモチーフとしたアイスクリームの協働開発および宣伝用大型紙芝居等の製作</td> </tr> <tr> <td></td> <td>真和志高校ユイマールプロジェクトチーム</td> <td>高良 奈美</td> <td>真和志高校ユイマールプロジェクト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>南部農林高校 バイオテクノロジー部</td> <td>中村 美和</td> <td>紅イモバイオ苗で地域おこし</td> </tr> <tr> <td>辞退</td> <td>はえばる Youth</td> <td>大城 美奈海</td> <td>知ってもらおう私たちの南風原町！</td> </tr> </tbody> </table> <p>*8 団体からの申請があったが、後日 3 団体より辞退の連絡受ける</p>	決定	申請団体名	代表者名	事業名称		高校生ボランティア Love & Peace	宮城 愛美	那覇市クリーンアップ大作戦	辞退	募金フェスタ・ダンスプロジェクト	窪田 圭悟	高校生募金フェスタ～出来る事 2009～	辞退	那覇市子連ジュニアリーダークラブ Friendly(フレンドリー)	金城 翔太	KYT発展プロジェクト		興南高校JRCインターアクトクラブ	宮里 翔大	英語の本を贈ろうプロジェクト		プロジェクト未来なは・ムムヌチハンタープロジェクト	知念 真子	那覇市ローカルヒーローをモチーフとしたアイスクリームの協働開発および宣伝用大型紙芝居等の製作		真和志高校ユイマールプロジェクトチーム	高良 奈美	真和志高校ユイマールプロジェクト		南部農林高校 バイオテクノロジー部	中村 美和	紅イモバイオ苗で地域おこし	辞退	はえばる Youth	大城 美奈海	知ってもらおう私たちの南風原町！
決定	申請団体名	代表者名	事業名称																																		
	高校生ボランティア Love & Peace	宮城 愛美	那覇市クリーンアップ大作戦																																		
辞退	募金フェスタ・ダンスプロジェクト	窪田 圭悟	高校生募金フェスタ～出来る事 2009～																																		
辞退	那覇市子連ジュニアリーダークラブ Friendly(フレンドリー)	金城 翔太	KYT発展プロジェクト																																		
	興南高校JRCインターアクトクラブ	宮里 翔大	英語の本を贈ろうプロジェクト																																		
	プロジェクト未来なは・ムムヌチハンタープロジェクト	知念 真子	那覇市ローカルヒーローをモチーフとしたアイスクリームの協働開発および宣伝用大型紙芝居等の製作																																		
	真和志高校ユイマールプロジェクトチーム	高良 奈美	真和志高校ユイマールプロジェクト																																		
	南部農林高校 バイオテクノロジー部	中村 美和	紅イモバイオ苗で地域おこし																																		
辞退	はえばる Youth	大城 美奈海	知ってもらおう私たちの南風原町！																																		

大学・専門学生グループ 10万コース			
決定	申請団体名	代表者名	事業名称
	うちなー学生環境サークルEARTH FROGS(アース・フロッグス)	神野 詩子	つながりパワー！エコでハッピーになろう！
	ガールスカウト琉球あくと。	柴本 藍	巨大首里迷路を楽しもう!!
	Reach(リーチ)	山田 政志	那覇市を拠点にビジネスリーダーを育成する
	kbcボランティア部(SOO:SAVE OUR OKINAWA)	與那嶺 優樹	わたしたちゅら海まもいんトウース
	『生きる力』フェスティバル実行委員会	知念 ありさ	『生きる力』フェスティバル
	「僕らのまち」製作委員会	比嘉 睦	インディーズ・ムービー「僕らのまち」
	福祉's	下地みのり	虐待を受けた子ども達への支援
いっちょやったるぞ!・20万円コース			
決定	申請団体名	代表者名	事業名称
	NPO法人 地域サポートわかさ	早川 忠光	若狭小学校区のスージグァ文化の再生と協働のまちづくり
	安謝美童太鼓	島袋 恵子	和太鼓・エイサーをかなさする会
	銘苅ハッピーネス	古堅 裕子	地域サポート
	NPO法人沖縄県難聴福祉を考える会・那覇市難聴福祉を考える会	新元 庄一郎	補聴器適合に関する講演会並びに相談会・定例会
	NPOカタヤピラ	金城 円	高校企画事業「ナナメの関係できっかけ創り」
	久茂地小学校区自治会	前上門 博	「久茂地小学校区自治会」ロゴ&地域財産デザインのためのワークショップ
	ボランティア劇団ハローーズ	屋我 美伊子	劇を通して子供達への健全育成

ばっちりやったるぜ!・50万円コース			
決定	申請団体名	代表者名	事業名称
	NPO法人沖縄ホールアース研究所	田中 啓介	伝えるチカラアップで那覇の魅力もアップ
	ゆるやかネットワークを作ろう!	玉城 圭記	公民館から宇宙と繋がる!地域と若者のゆるやかネットワークを作ろう!
	沖縄シニアの会	石橋 佳子	高齢者の社会参画サポート事業のための事務局開設
	レドリボンコンサート実行委員会	宜寿次 政江	レドリボンコンサート 沖縄
	NPO法人地域学校支援研究フォーラム	野原 正徳	学校を拠点とする子どもの学業支援の充実と教育支援ボランティアの養成・資質向上研修の充実及び家庭教育(子育て地域)支援事業の拡充
	オフィスこころ育て	岡村 初枝	子そだて音楽祭
	NPO法人首里まちづくり研究会	石崎 雅彦	首里城下の遊覧説明板を活かしたマップ制作事業
	NPO法人クリーン・グリーン・グレイシャス	松岡 啓	那覇市植物美化とゼロエミッション
	おきなわ共育ファンド	田中 美幸	地域コミュニティスポット(Web構築)設営事業(子育て期の働く親を応援する)
	NPO法人ヴィクサーレ 沖縄	加藤 久	ヴィクサーレ沖縄FCサッカー教室
	映像集団ハイニシムイ	山城 知佳子	沖縄における芸術文化・映像アーカイブス作成事業
参加者の声	<p>【公開審査会来場者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開審査会をやることによって、様々な団体が活動していることがわかったし、どんな想いで活動しているかが肌で感じられたのでとても良かった。</li> <li>・色々な方々の発表(特に若い世代の発表)には、エネルギーのヒートを感じたり、大きな元気を自分達ももらえた事に感謝。</li> <li>・色々な方々が、様々な事業を通し、那覇市をひいては沖縄を元気にする為の活動をしているんだなーと熱いものを感じた。</li> <li>・審査員がもっと多くても良い。審査員が欠席するというのが参加者(発表)としては「？」でした。</li> <li>・公開審査会なのでNPOに興味を持っている人以外も来て頂きたいと思う。</li> </ul>		

<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく新設したコースコースの募集が、目標の各コース10団体には届かなかったものの、高校生8団体、大学専門7団体の申請があり、団体を発掘し集めることができた。直接高校に出向いたのがよかった。</li> <li>・申請数が目標にしていた25団体を超え37の申請団体を集めることができた。</li> <li>・公開審査会当日スタッフをインターンスタッフとして位置づけ、モチベーションの高いメンバーで運営することができスムーズな運営ができた。また、関わった学生が公開審査会後もセンターに関わることできている。</li> <li>・公開審査会後の団体の広報ツールとして「那覇まちのたね通信」を活用できた。</li> <li>・申請団体のメーリングリストを作成し、団体同士の情報交換ができるようなしくみをつくることで、団体の活動の動きがみえた。</li> <li>・沖縄県教育委員会の後援を受けることができなかった。</li> <li>・高校生グループコースの3団体から公開審査会前に辞退の連絡があった。申請からスタッフがどのように関わっていくか課題である。</li> <li>・公開審査会の来場者は、申請団体の関係者が多かったように感じる。一般市民のNPOを知ってもらうきっかけとなるような仕掛けと呼びかけが必要。</li> <li>・団体に対しその後のフォローアップができなかった。</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開審査会の幅広い広報を行い、一般市民の来場者80名をめざす。</li> <li>・助成団体へのフォローアップを強化する。</li> </ul>

事業区分	「NPOゆいまーるファンド」～資金の再配分によって社会を変える～	
事業名	那覇市NPO活動支援基金 高校生グループコース 大学生グループコース新設	
計画	取組むべき課題	NPOの数は増えてきたが、若者の参加がすくない
	目標	公開審査会に高校生コース、大学・専門学校生コースを新しく設立し、参加団体を募集する。NPOの若い芽を育てるために、団体を発掘し、応募してもらう。申請数の目標は「各コースの倍率が2倍になるように20団体応募」を目指す。
実行	概要	<p>コース概要</p> <p>「高校生グループ」10万円助成コース：5団体</p> <p>「大学生・専門学校生グループ」10万円助成コース：5団体</p> <p>各コース応募団体数</p> <p>「高校生グループ」10万円助成コース：8団体</p> <p>「大学生・専門学校生グループ」10万円助成コース：7団体</p> <p>実際の申請数</p> <p>「高校生グループ」10万円助成コース：5団体</p> <p>「大学生・専門学校生グループ」10万円助成コース：7団体</p> <p>広報期間 2009年4月～6月</p> <p>実施回数 那覇市内の高校すべてに、多いところには3回ほど訪問した。参加する高校生を探すというよりはキーパーソンとなる「高校生の学外活動の支援」をサポートする大人を探すための活動をした。</p> <p>参加人数 那覇市内の高校、中学校、公民館、県庁、那覇市（市民憲章課）、那覇市子ども会連合会（ジュニアリーダー）、学童保育、ガールスカウト、ボーイスカウト、FC琉球、琉球キングスなどを訪問。当初は高校の校長先生・教頭先生・生徒会担当の先生を訪問した。また市内公民館の青年講座担当者を訪ねた。月1の中間支援ミーティングにて県ボランティアセンターのボランティア指定校になっている学校や、地域活動に熱心な先生を紹介してもらった。</p> <p>広報活動 基本的には直接訪問して、公開審査会の話をする。</p> <p>準備物 チラシ、助成金の申請書</p>
	事業対象	県内高校生、大学生、専門学校生
	利用者の声	【高校の先生】広報がもう少し早い方がいい。自分で企画して応募するというのは、今の高校生には難しい。企画づくりなどの研修などがあればいい。赤十字の企画で3月に自分たちでこういうことをします、というがあるので、そこに参加
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<p>【できたこと】</p> <p>若者の参加</p> <p>高校生コース8団体、大学生・専門学校生コース7団体の応募につなげ、公開審査会へ若者の応募につなげた。</p>

		<p>一般団体への波及効果          一般（20万円コース、50万円コース）の団体も高校生の刺激を受け、プレゼンテーションも盛り上がった。</p> <p>懇親会の活性化          懇親会への参加も昨年度よりは参加者が増え、団体同士の交流につながった。</p> <p>【できなかったこと】          20団体の応募を集める          当初目標にしていた参加団体数は、高校生コース10団体、大学・専門学校コース10団体を予定していた。達成率は75%になる。</p> <p>マスコミを活用した広報          公開審査会の記事は沖縄タイムスに掲載されたが、写真入りではなかった。</p> <p>一般市民の集客          昨年度よりは参加団体が増え、プレゼンテーションをするメンバー以外が客席に座り盛り上がった。しかし関係者のみの参加ではなく、一般市民の集客は今後の課題</p>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<p>ユース団体の活動の広報          若者を参加させることが出来たが、次の課題は10万円を活用してどのようなことが出来たのか。事業を振り返り、このお金を活用することによって市民社会にどのような効果があったのかを一般市民に広く伝えていく。そのことによってNPOの活動意義の広報につなげていく。来年度の広報の一番の対策は、公開審査会のプレゼンテーションの撮影をOCNに依頼し、市民の力の特別番組を作ってもらおう。団体プレゼンテーションは3～5分なので、ユーチューブにアップして、那覇まちのたね通信からリンクをはり見れるようにする。</p>

事業区分	「NPOゆいまーるファンド」～資金の再配分によって社会を変える～										
事業名	公益信託那覇市NPO活動支援基金 市民提案・協働型まちづくり助成コース										
計画	取組むべき課題	ハード助成は、ハード整備のみでしか使用できないため事業を進めていくうえで資金的な難しさがうまれている。									
	目標	ソフト助成と併用して申請する団体を集める。									
実行	概要	<p>【第2回 市民提案・協働型まちづくり助成コース】 助成説明会の実施</p> <table border="1"> <tr> <td>5月20日</td> <td>助成金説明会（若狭公民館）</td> </tr> <tr> <td>5月21日</td> <td>助成金説明会（沖縄大学）</td> </tr> <tr> <td>5月22日</td> <td>助成金説明会（沖縄国際大学）</td> </tr> <tr> <td>5月24日</td> <td>助成金説明会（那覇市NPO活動支援センター）</td> </tr> </table> <p>内 容：那覇市における市民提案のまちづくりハード整備事業に対して助成を行う。 助成金額：50万円～300万円 応募期間：平成21年5月19日～6月5日（ソフト助成と同期間）</p> <p>【公益信託 那覇市NPO活動支援基金 公開審査会&amp;公開プレゼンテーション】 日 時 平成21年7月4日（土）10：00～17：00 場 所 てんぶすホール 那覇ぶんかテンプス館 来場者数 157名（発表団体・関係者含む） 広報活動 那覇市広報誌・メルマガ、チラシ配布、新聞無料広告、センターブログアップ等 スタッフ数 21名（なはセンスタッフ9名、当日スタッフ12名） 主 催 三菱UFJ信託銀</p> <p>申請団体数：4団体（内1団体は辞退）</p>		5月20日	助成金説明会（若狭公民館）	5月21日	助成金説明会（沖縄大学）	5月22日	助成金説明会（沖縄国際大学）	5月24日	助成金説明会（那覇市NPO活動支援センター）
		5月20日	助成金説明会（若狭公民館）								
5月21日	助成金説明会（沖縄大学）										
5月22日	助成金説明会（沖縄国際大学）										
5月24日	助成金説明会（那覇市NPO活動支援センター）										
	決定	申請団体名	代表者名	事業名称							
	辞退	沖縄シニアの会	石橋 佳子	高齢者の社会参画サポート事業のための事務局改装							
		久茂地小学校区自治会	前上門 博	「久茂地川」「鯉のぼり」などの地域資源を活用した地域財産整備事業							
		NPO法人 首里まちづくり研究会	石崎 雅彦	首里金城町石畳道地区の遊覧説明板整備事業							
		おきなわ共育ファンド	田中 美幸	地域コミュニティスポット施設設置事業（子育て期の働く親を応援する）							

		<p>【ハード助成 非公開審査会】</p> <p>日 時 平成 21 年 9 月 25 日（金）10:00～12:30</p> <p>場 所 那覇市NPO活動支援センター 会議室</p> <p>基金運営委員 8名</p>
	事業対象	那覇市民を対象とした社会貢献活動を行う市民活動団体
評 価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度募集团体数が0団体だったが、今年度は4団体の申請があった。</li> <li>・ソフト助成と募集期間を同時期にすることで、ソフト助成とあわせた事業内容で申請する団体からの募集があった。団体にとってはソフト助成とハード助成をうまく利用して事業を推進することができるのではないかと。</li> <li>・ソフト助成の公開審査会で、公開プレゼンテーションを行うことで申請団体の広報につながった。</li> <li>・公開プレゼンテーション後から審査会まで時期があいていたため、団体に戸惑いを与えていた。公開プレゼンテーション後のスケジュールを団体に伝えることが必要。</li> <li>・ソフト助成の事業は今年度事業であり、ハードは次年度事業の申請である。そのため、ソフト助成の事業が進まないと、ハード事業の具体的な内容がみえないので審査する時期が遅れた。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	引き続きソフト助成と併用して申請してもらい、二つの助成を活用できるような体制を整える。

事業区分	「NPOゆいまーるファンド」～資金の再配分によって社会を変える～	
事業名	公益信託那覇市NPO活動支援基金 基金運営委員会	
計画	取組むべき課題	・那覇市で活動するNPO・市民活動が広がり、ステップアップしていくための資金ニーズこたえていく。
	目標	・公開審査会における審査の実施。・ハード助成に関する審査 ・新規コースであるコース助成の審査と検証 ・次年度の基金の募集要項の決定
実行	内容	公益信託那覇市 NPO 活動支援基金の助成事業を円滑に行うために、三菱UFJ信託銀行、那覇市と協力して運営委員会を開催する。
	概要	【那覇市NPO活動支援基金運営委員会】実施数：3回 【第1回】平成21年7月4日（土）公開審査会 【第2回】平成21年9月25日（金）ハード助成審査 【第3回】平成22年2月26日（金） ハード助成審査、決算見込みと来年度の予算、平成21年度ソフト助成及びハード助成実績報告 平成21年度プログラムの検証と平成22年度プログラムについて 場所：那覇市NPO活動支援センター会議室
	運営委員	・稲垣 純一 国際電子ビジネス専門学校 ・真喜屋 光子 那覇市女性問題会議会長 ・寺田 麗子 ・仲田 美加子 ・田端 温代 NPOなはまちづくりネット代表 ・上原郁夫 那覇市市民文化部長 ・松本 哲治 NPO法人ライフサポートてだこ ・宮里 由紀子 エグゼカティブ・リンク ・横山 芳春 長田小学校 校長
	事務局	三菱UFJ信託銀行：牧瀬充典、鈴木信夫、江川康治 那覇市市民協働推進課：照屋初美、松田幸枝 那覇市NPO活動支援センター：小阪亘、宮道喜一、下地美香
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	・公開審査会における審査は滞りなく終了した。 ・ハード助成の公開プレゼンを公開審査会で行うことで、ハード助成の認知を広げることができたが、一方で後半の審査まで間延びしてしまった。 ・ユース助成コースの検証については、ユースならではの丁寧な説明とフォローが課題としてあげられたが、ユースに特化した事務局体制の強化は認められず、既存の指定管理業務内メニュー（NPOヒトワク等）で対応することが決まった。 ・ユース助成は継続する。
次への展開	次年度方針	・助成を受けた団体の活動情報発信の機会づくりを行っていく。 ・ユース助成の助成を受ける側の責任の所在や助成事業の執行ルールの理解の徹底、助成事業実施中のフォロー体制・方法などユース助成プログラムの確立を行う。

事業区分	「企業活力」～市民社会を支えるもう一つの力～	
事業名	ゆめきらきらマグネットコーディネート事業	
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会での障がい者雇用の低さ</li> <li>・福祉作業所の工賃の低さ</li> <li>・NPO、市民活動団体の活動資金調達が困難である</li> </ul>
	目標	なはセンが繋ぎ役として、県内企業と福祉作業所の協働を支援。当事業の実施・定着をサポートし、今後の企業と作業所の協働モデルとしての役割を果たすと同時に、市民活動団体の資金調達支援を進める。
実行	概要	<p>NPO 法人ソーシャルデザインファンドが発案し、県内企業との協働で商品開発を行い「ゆめきらきらマグネット」を発案。販売価格の一部に、寄付金が組み込まれ、商品制作を福祉作業所と企業が協働で行う。また、商品制作に対する工賃を正当な価格で設定したことで福祉作業所の工賃アップに繋がる仕組み作り。</p> <p>2009年6月から、試験的に県内での取り組みを開始。</p> <p>「ゆめきらきらマグネット」          発案：NPO 法人ソーシャルデザインファンド          製作：県内6カ所の福祉作業所、琉球ガラス村          販売：琉球ガラス村          効果：販売価格から1個当たり50円が寄付金、50円が福祉作業所の工賃となる          広報：まちからコラボ Vol.6 . 「NPO×企業」特集記事          ターフーンfm「NPOヒットワク」での広報</p>
	支援団体	共同作業所ふれんど、福祉の店ナカヤ、福祉作業所ゆいまーる、ふいーるど ぱわー、地域活動支援センターなは、地域活動支援センター首里
	協働企業	琉球ガラス村
	事業対象	福祉作業所、県内企業、NPO、市民活動団体
	取り組み	<p>2009年6月14日 【NPO福祉上映会「筆子・その愛 天使のピアノ」及び山田火砂子監督講演会】にて「ゆめきらきらマグネット」100個を無料配布</p> <p>2009年11月1日 琉球ガラス村にて販売開始</p> <p>2010年3月 結婚式の引き出物として発注</p>
	福祉作業所の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1個当たりの工賃設定が、従来の工賃に比べ高い</li> <li>・作業工程が分かれているので、作業の役割分担ができる</li> <li>・作業が細かいので、作業できるメンバーが少ない</li> <li>・障がい者自身の絵が商品として販売されることが、障がい者の喜びになっている</li> <li>・事業がどうなっているのかわからない</li> </ul>

<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に、琉球ガラス村での販売が開始された</li> <li>・現時点では売上数が少ないため、定期的な発注がない</li> <li>・琉球ガラス村との、新たな商品開発の検討に繋がった</li> </ul>
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<p>広報の強化。 販路拡大を図り、安定した受注の確保に繋げる。</p>

事業区分	「企業活力」～市民社会を支えるもう一つの力～	
事業名	第58回日本青年会議所全国大会沖縄那覇大会 記念事業 NPOと企業のパートナーシップ in 沖縄	
計画	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年会議所がもつ企業ネットワークと那覇市NPO活動支援センターが持つNPOネットワークをつなぎ合わせ、那覇における事業成果の高い社会貢献活動と地域課題の解決を行える継続した仕組みをつくる。</li> <li>・企業や行政、市民から発生する社会資源循環（人・物・金・情報）の仕組みを協働でつくる。</li> <li>・社会性、公益性の高い企業が増える</li> </ul>
	目 標	<p>NPO 側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と協働での取り組み(NPOからの視点)と成果と課題</li> <li>・企業と協働で地域課題に取り組むことによって解決できること</li> <li>・継続のしくみは？はじまりはどちらから？</li> </ul> <p>企業側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOと協働での取り組み(企業からの視点)と成果と課題</li> <li>・企業の社会貢献活動としてNPOと協働する理由</li> <li>・継続のしくみは？はじまりはどちらから？</li> </ul>
実行	概 要	<p>日 時 2009年11月14日(土)13:00～17:00(開場12:30)</p> <p>参加人数</p> <p>参加費 無料</p> <p>場 所 沖縄県男女共同参画センター「ていりる」</p> <p>主 催 社団法人那覇青年会議所</p> <p>協 力 那覇市NPO活動支援センター</p>
	講 師	<p>金森康(NPO法人ソーシャル・デザイン・ファンド代表理事)</p> <p>NPOや地域社会に貢献しながら企業自身にもメリット&amp;儲けがある「CSR」。世界や日本における成功例とともに、沖縄のNPOと企業の素敵な関係をご紹介します。</p>
	事業対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JC会員・CSR、社会貢献活動に興味のある企業担当者</li> <li>・企業とのパートナーシップに興味のあるNPO</li> </ul>
	プログラム	<p>基調講演:「NPO×企業の協働 総論」</p> <p>沖縄県内の事例</p> <p>事例1:フードバンクセカンドハーベスト沖縄×株式会社なかむら食品</p> <p>事例2:特定非営利活動法人ふいーど・ぱわー×琉球ガラス村</p> <p>事例3:特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく×FMなは分科会(45分×2回)</p>
評 価	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇青年会議所を通じて企業と連携し事業を一緒につくり上げることができた。多くの時間を企画会議に割くことによりNPOの考え方や社会貢献活動を企業が進める意味について企業、NPO双方の考え方をぶつけあうことができた。</li> </ul>
次への展開	次年度方針	NPOと企業のマッチングといった機能が求められているため県内の社会貢献活動を行っている企業のデータベース化を行う。



那覇市NPO活動支援センター事業

## 平成 21 年度事業報告書

平成 22 年 3 月

発行：那覇市NPO活動支援センター

(指定管理者 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく)

〒900 - 0013 那覇市牧志 3 丁目 2 - 10 ぶんかテンプス館 3 階

TEL:098 - 861 - 5024 FAX : 098 - 861 - 5029

E-mail : nahanpo@ybb.ne.jp